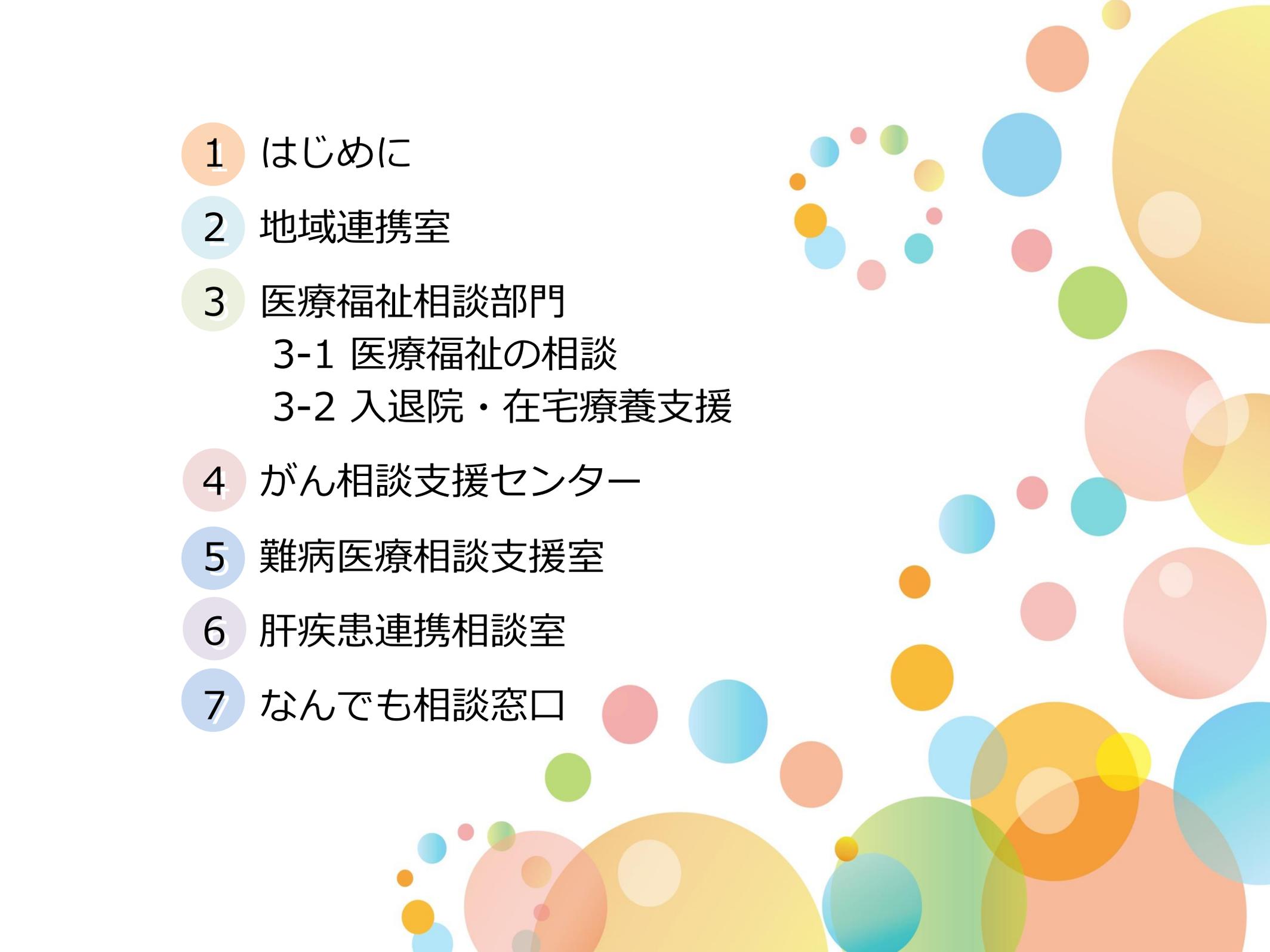


ANNUAL REPORT2023

浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター





1 はじめに

2 地域連携室

3 医療福祉相談部門

3-1 医療福祉の相談

3-2 入退院・在宅療養支援

4 がん相談支援センター

5 難病医療相談支援室

6 肝疾患連携相談室

7 なんでも相談窓口



はじめに

浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター長
安田日出夫

2023年度は、2019年から始まった新型コロナウイルス感染症が感染症法における2類から5類への移行し、収束へ向かった年でした。医療福祉支援センターにとっては病院内における医療福祉支援センターの貢献度をさらに上げるための以下の様な体制構築に尽力した年でもありました。

2023年6月 なんでも相談窓口 開設

2023年9月 入退院支援のための病棟専従看護師 配置

2023年11月 高齢者・障害者・DV虐待防止委員会 開催

通常業務に加えてこれらの体制を整備するのは大変で、センターの現場レベルでは追い込まれることもあったと思います。

2023年度から赴任した河合師長が中心となって、なんでも相談窓口は高田師長、病棟専従には内山副師長、虐待防止委員会では鈴木任哉社会福祉士などが多大な尽力をしてくれました。センター内の個々のメンバーがいろいろなストレスを抱えながらも頑張ってくれたお陰です。

本年報を見直して1年を振り返ると、医療福祉支援センターの1人1人に対して感謝の気持ちが沸いてきます。私にとっては、これはそんな年報です。

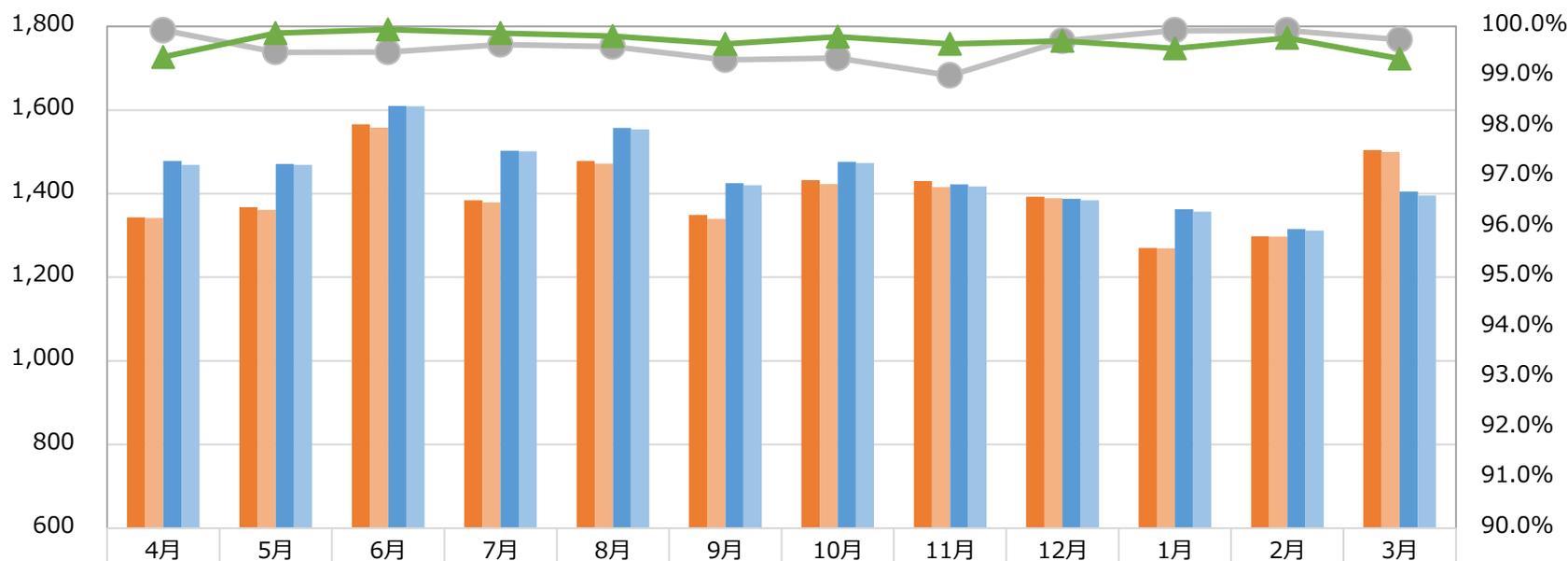
2 地域連携室



2 地域連携室

1 初診紹介患者数と地域連携室での受付患者数

令和5年度の初診紹介患者数は年間総数17,413件で、令和4年度の16,815件から598件増加した。紹介患者のうち地域連携室での事前受付患者は年間総数17,361件と令和4年度の16,746件から615件増加した。地域連携室での事前受付比率は年度平均99.7%となり、令和4年度の99.6%から0.1%増加した。

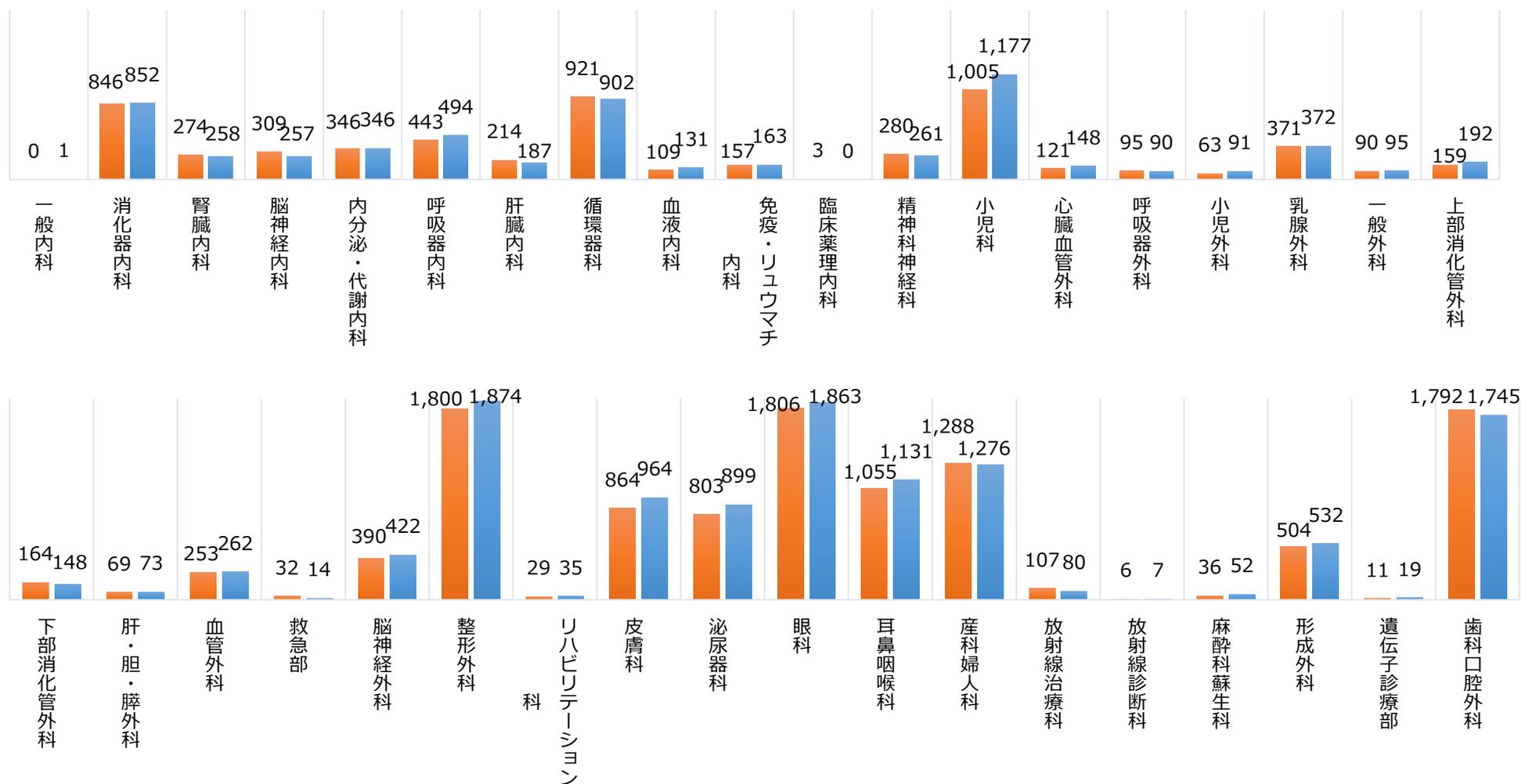


R4年度総数	1,343	1,368	1,566	1,384	1,478	1,349	1,432	1,430	1,393	1,270	1,298	1,504
R4年度連携室受付数	1,342	1,361	1,558	1,379	1,472	1,340	1,423	1,416	1,389	1,269	1,297	1,500
R5年度総数	1,478	1,471	1,610	1,503	1,557	1,425	1,476	1,422	1,388	1,363	1,315	1,405
R5年度連携室受付数	1,469	1,469	1,609	1,501	1,554	1,420	1,473	1,417	1,384	1,357	1,312	1,396
R4年度連携室受付%	99.9%	99.5%	99.5%	99.6%	99.6%	99.3%	99.4%	99.0%	99.7%	99.9%	99.9%	99.7%
R5年度連携室受付%	99.4%	99.9%	99.9%	99.9%	99.8%	99.6%	99.8%	99.6%	99.7%	99.6%	99.8%	99.4%

2 地域連携室

2 診療科別紹介患者件数

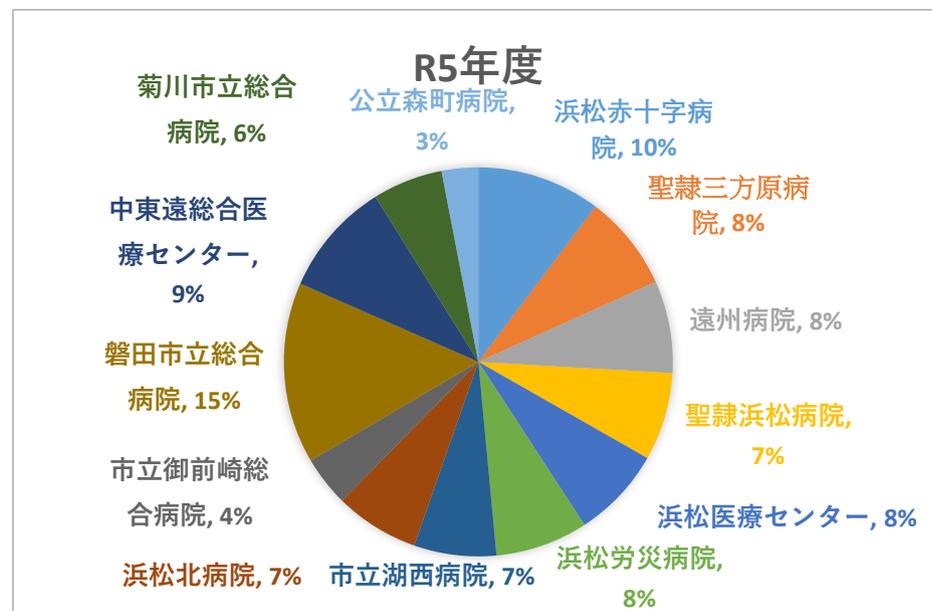
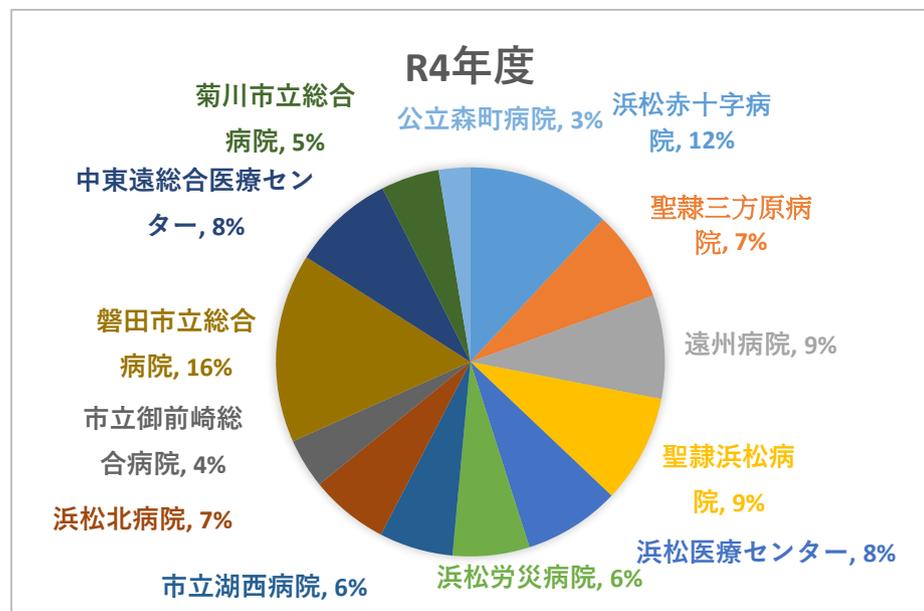
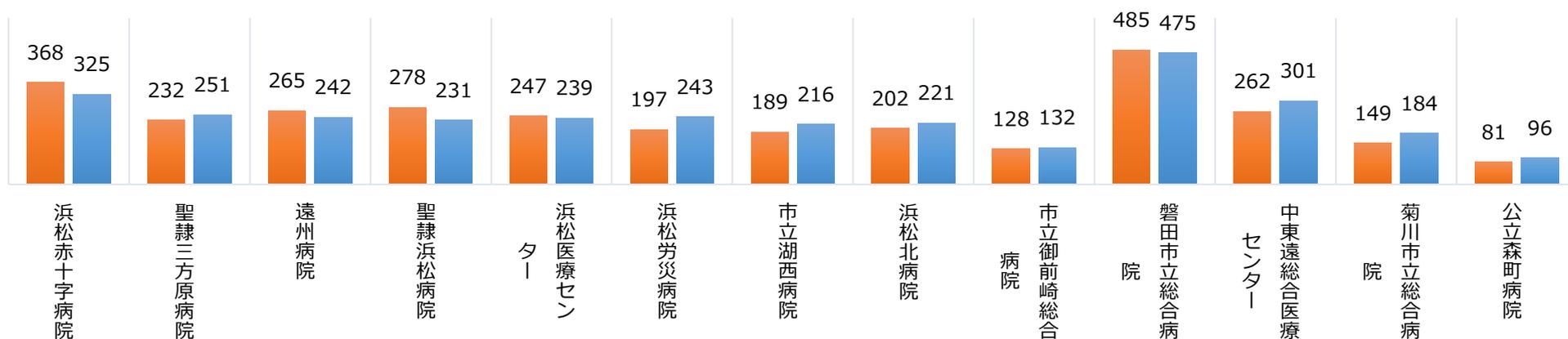
令和4年度と比較して件数の変化が目立つ診療科としては、小児科が172件、皮膚科が100件、耳鼻咽喉科が76件増加した。



2 地域連携室

3 近隣医療機関からの紹介患者数の比較

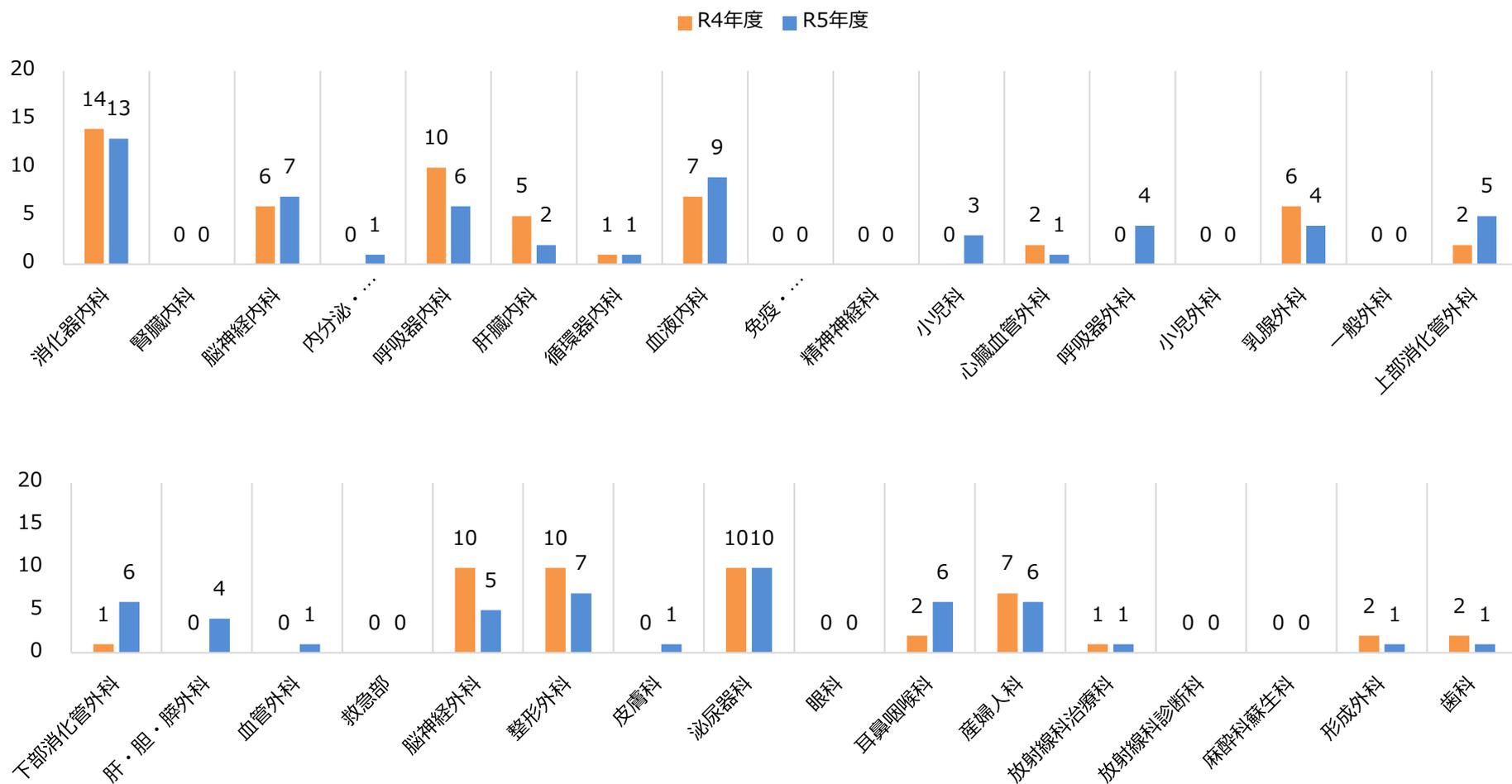
令和5年度に近隣医療機関から紹介された患者総数は3,156件で、令和4年度の3,083件から73件増加した。割合で見ると、令和4年度とほぼ変わりはない。



2 地域連携室

4 セカンドオピニオンの実績件数

令和5年度のセカンドオピニオン外来の実績件数は105件で、令和4年度の98件から7件増加した。

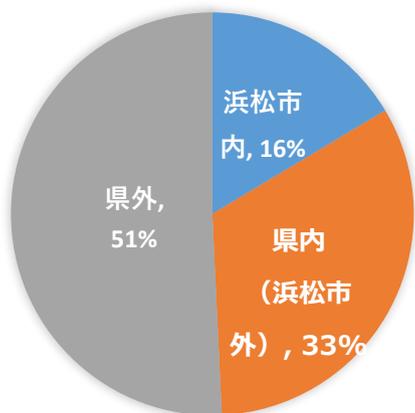


2 地域連携室

5 セカンドオピニオン依頼件数

令和5年度のセカンドオピニオン依頼件数は68件で、令和4年度の74件から6件減少した。静岡県内の医療機関への依頼件数は33件で全体の49%、県外への依頼件数は35件で51%である。

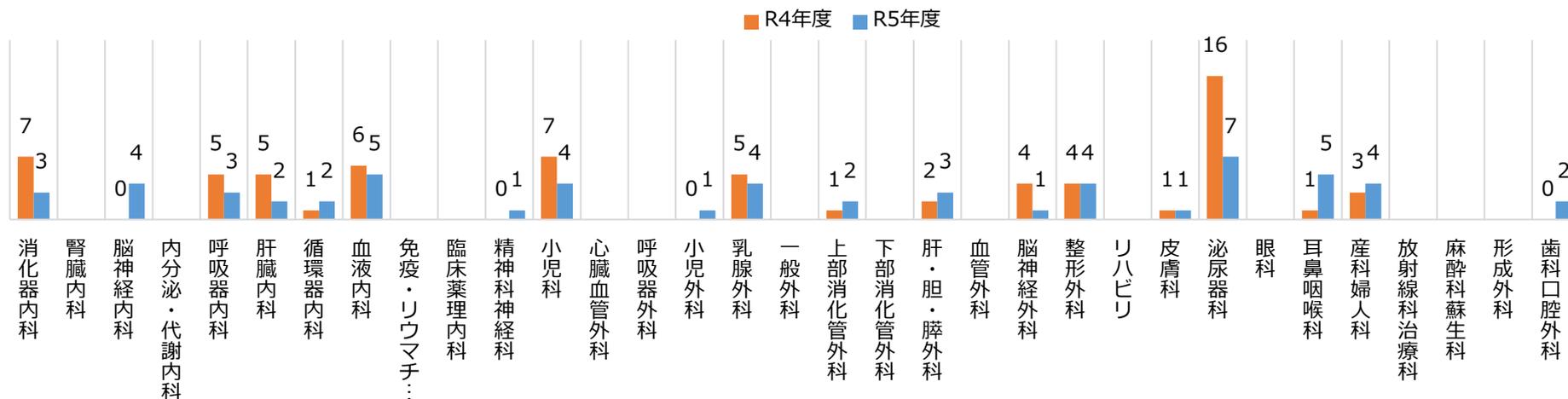
【依頼先医療機関】



静岡県立静岡がんセンター
聖隷浜松病院
国立がん研究センター 中央病院
がん研究会有明病院
国立がん研究センター東病院
国立成育医療研究センター
慶應義塾大学病院
静岡県立こども病院
東京大学医学部附属病院
タカラクリニック
名古屋医療センター
静岡県立総合病院

東京医科歯科大学医学部附属病院
名古屋大学医学部附属病院
うえやまメンタルクリニック
愛知県がんセンター
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院
北里大学病院
大阪市立総合医療センター
榊原記念病院
東京医科大学病院
三井記念病院
藤田医科大学病院
山梨大学医学部附属病院

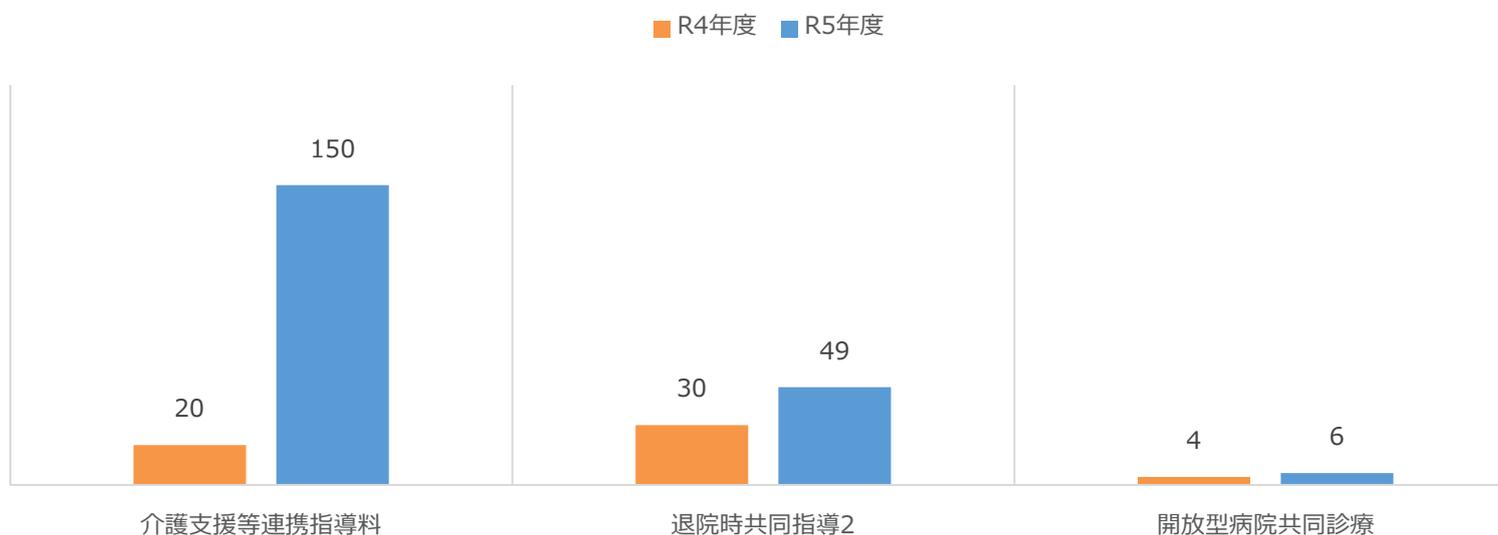
浜松医療センター
順天堂大学医学部附属静岡病院
名古屋ハートセンター
新都市病院
名古屋市立大学病院
新百合ヶ丘総合病院
TOKYO免疫統合医療クリニック
聖隷三方原病院



2 地域連携室

6 介護支援連携指導・退院時共同指導2・開放型病院共同診療実績

令和4年度と比較して介護支援等連携指導料の算定件数は130件増加、退院時共同指導料2は19件増加、開放型病院共同診療は2件増加した。



【令和6年度目標】

- ・ 外来Web予約システムの推進
- ・ 逆紹介率の向上
- ・ 新規患者の獲得



3 医療・福祉部門

3-1 医療福祉の相談

3-2 入退院・在宅療養支援

3-1 医療福祉の相談

1 相談支援件数の推移

●新規相談件数は前年より984件増え4,252件だった。コロナ禍より回復しつつある当院の入院患者数の増加に伴うものと、早期介入を目指し特定の病棟に専従の退院支援看護師が配置されたことや、年度途中から退院支援加算1算定を目指し各病棟に専従の退院支援職員が配置されたことで拾い上げが行われ、件数が増えたものと思われる。

新規相談件数の内訳としては、例年通り入院患者の転院支援や在宅支援を中心に、制度の紹介や医療費の相談といったことの件数が増えている（表2）。上記理由での入院患者の拾い上げによる相談件数の増加とともに、外来患者の相談件数も増加をしていた。老々介護、一人暮らしの高齢者、キーパーソンがいないなど、以前の家族のスタイルからの変化により対応が困難なケースが増えており、退院や転院、在宅支援に難渋するケースが増えている。

表1 年度別新規相談件数(件)

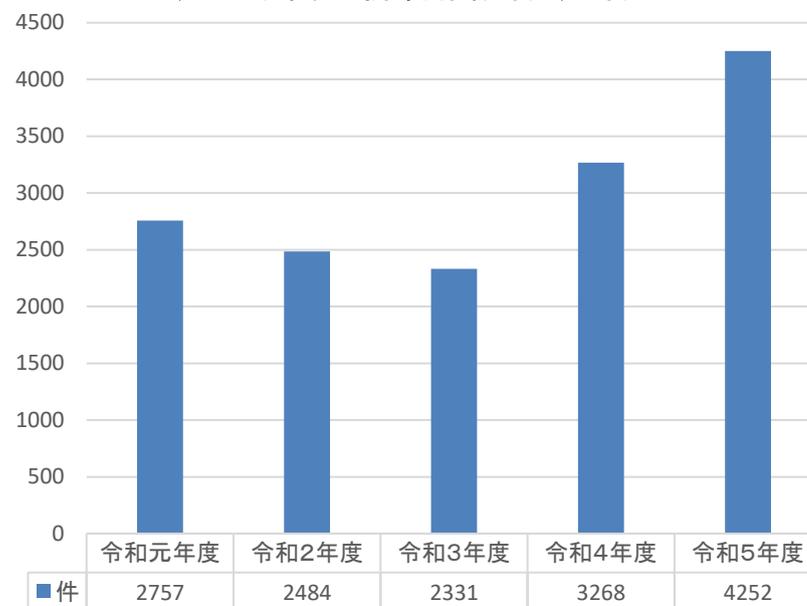


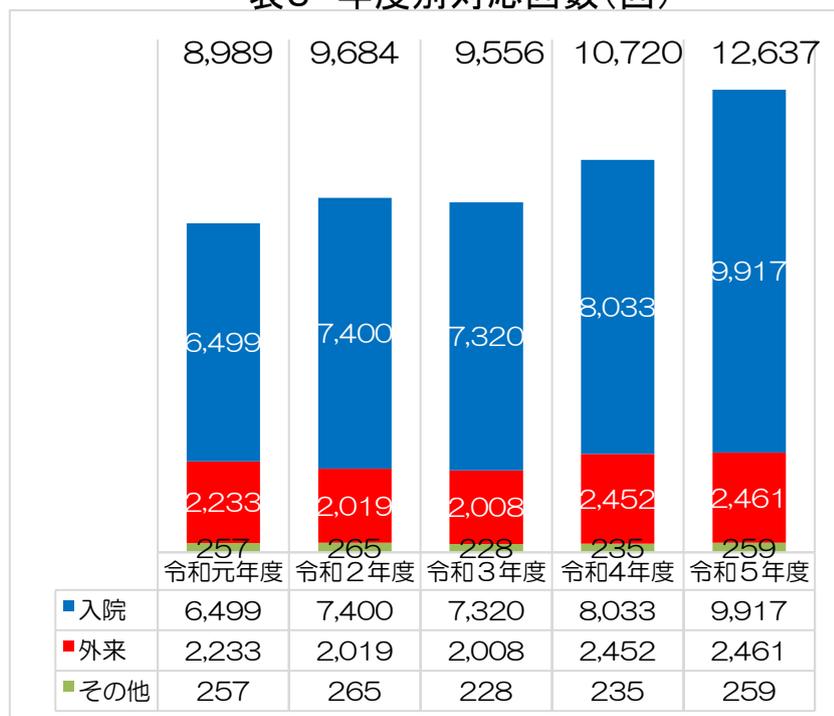
表2 主な相談件数(件)

	令和4年度	令和5年度	増減
退院支援	1031	1211	180
在宅支援(入院患者)	360	575	215
制度の紹介	367	488	121
医療費の相談	307	362	55
福祉介護の相談	131	190	59
医療処置に関して	110	92	△ 18
当院の受診について	96	162	66
在宅ケア調整(通院患者)	94	108	14
診療所・他院へ連携(外来患者)	85	132	47
生活費の相談	75	88	13

3-1 医療福祉の相談

●対応した回数は、12,637回で前年度より1,917増加した（表3）。主な相談回数としては、入院患者の転院支援に6,237回、入院患者の在宅支援に2,519回関わっていた。転院には1件につき5,1回、在宅支には1件につき4,3回関わっていたことになる。在宅への支援のほうに関わる回数が少なかったことは予想と違っていた。これも先に挙げた身寄りのない方などの支援で自宅に帰れず他施設への調整で難渋するケースが増えていることに関わっているのかもしれない。

表3 年度別対応回数(回)



●令和5年3月より転院の相談をクラウド上でやり取りするケアブックの導入を行った。静岡県西部地域では聖隷病院が導入しており同じシステムを利用することで円滑な退院支援を行えるようになった。令和5年度利用件数115件。

※令和3年度より患者からの要望もありヘルプマークの配布を行っている。

令和3年度 194個配布

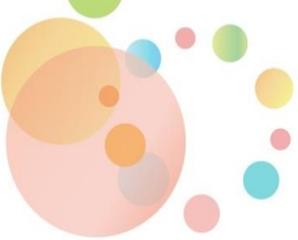
令和4年度 422個配布

令和5年度 339個配布

- ◆配布者は女性64%、男性35%。
- ◆身体障害者等の手帳保持者42%
- ◆年齢別配布割合

～10歳	5%
10代	6%
20代	4%
30代	5%
40代	11%
50代	24%
60代	20%
70代	24%
80代以上	1%





3-1 医療福祉の相談

2 虐待対応

【高齢者・障害者・DV虐待防止委員会】

令和5年度より予めから要望のあった『高齢者・障害者・DV虐待防止委員会』を設置した。医事課が主体として立ち上げを行い参加メンバーとしては主要診療科の医師、コメディカルに依頼し、委員長は医療福祉支援センター長が行うこととなった。第1回臨時委員会を令和5年11月29日に開催し、その後7件の相談を受け(高齢者虐待：5件、障害者虐待：2件)、そのうち臨時委員会を5回開催した。虐待種別としては、ネグレクト疑いが4件と最も多く、次いで身体的・心理的虐待疑いが3件。定例委員会は、今後1月・5月・9月に開催予定。外部の有識者の意見を参考にしたり地域連携の観点から、浜松市の長寿支援課にも参加を打診していく。まだまだ未熟な会のため、メンバーそれぞれのスキルアップが課題。

【児童虐待対応委員会】

令和5年度の児童虐待に関する相談件数は、養育困難ケースを含めて54件であった。虐待(疑い)を発見した職員から連絡を受け児童虐待養育困難委員会の臨時委員会が8回開催された。また臨時委員会開催には至らないが、不適切な養育環境が疑われるケースとして小児科や産科以外の診療科からも相談が増加した。これは昨年度行ったフローシートの改定や定期的な研修会の開催の効果ともいえるが、研修会終了後のアンケートではフローシートの認知度が半数程度であったことも踏まえ、職員への教育や周知の方法について今年度の課題としていきたい。

3-1 医療福祉の相談

3 障害年金相談会

社会保険労務士が当院にきて相談に対応する『障害年金相談会』を年4回開催し、11名が参加をした。毎年開催している会のため院内での認知度が少しずつ上がり、外来や病棟の看護師から連絡があり対応するケースも見受けられた。専門家と協力して行う貴重な会であり、有効な情報提供ができるので、来年度以降も継続していきたい。

〔開催日〕

令和5年4月10日	2名
令和5年7月10日	4名
令和5年10月10日	3名
令和6年1月10日	2名
	11名

障害年金 相談会

相談
無料

病気や事故などで日常生活が不自由になったり働くことが制限されたとき、障害基準を満たしていれば障害年金がもらえます。

年金制度の
しくみとは？

受給額の
計算方法

障害年金の
基準は？

- 日程** 07月10日（月） 事前予約枠-4名
当日受付開始-12:30
当日受付終了-16:30
※当日の無料駐車券の発行は致しません
- 時間** 13:00~17:00
- 場所** 浜松医科大学病院
外来棟1階 医療福祉支援センター
- 担当** 静岡県社会保険労務士会所属
年金相談員

お問い合わせ
医療福祉支援センター

TEL 053-435-2772
時間 平日 9:00~17:00



3 医療・福祉部門

3-1 医療福祉の相談

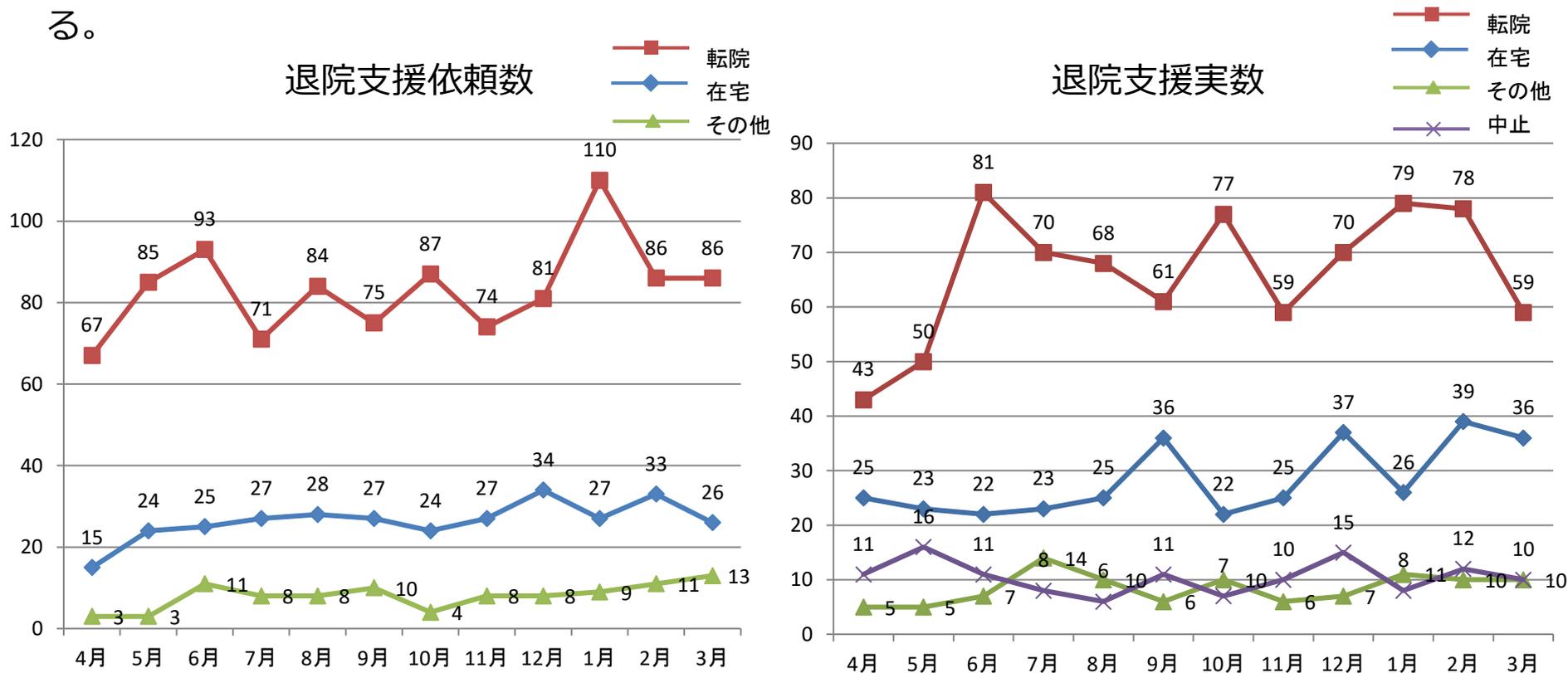
3-2 入退院・在宅療養支援

3-2 入退院・在宅療養支援

1 退院支援依頼と実績

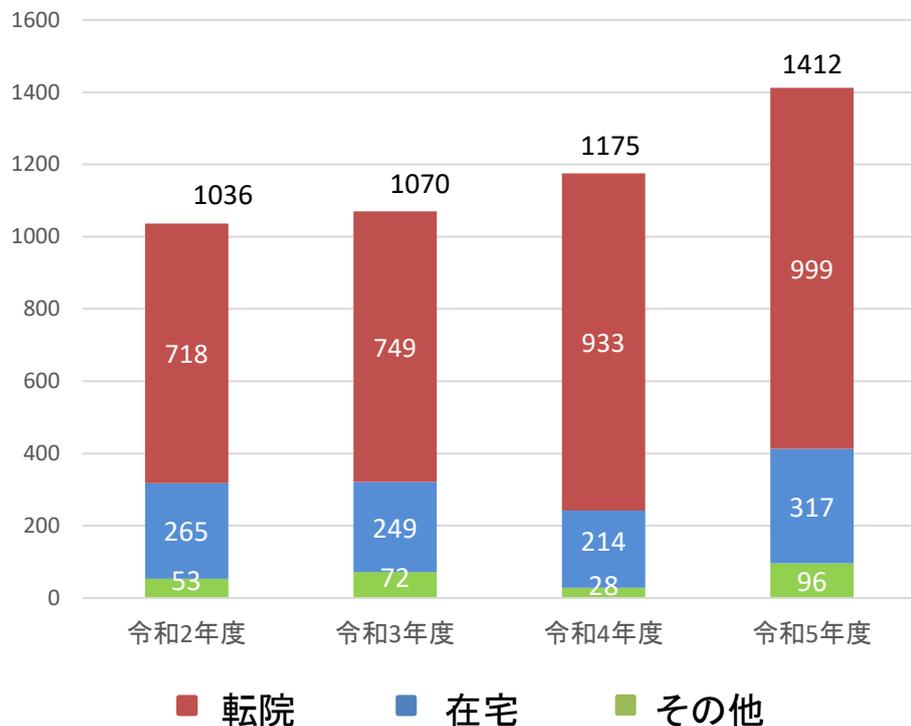
令和5年度の退院支援依頼数は1,412件で前年度より237件増加した。今年度は5月以降、毎月100件以上の依頼が提出された。病院全体の稼働率上昇、一部の病棟で退院支援病棟専従者を配置したため依頼数も増加したと考えられる。心筋梗塞、脳梗塞の入院患者が増加する冬季の依頼数が例年同様増加した。

退院支援実績は、在宅調整339件、転院調整999件、その他調整96件であった。この割合は例年通り大きな変化はなく、転院調整（その他施設入所等も含める）が全体の7割程度を占めている。



3-2 入退院・在宅療養支援

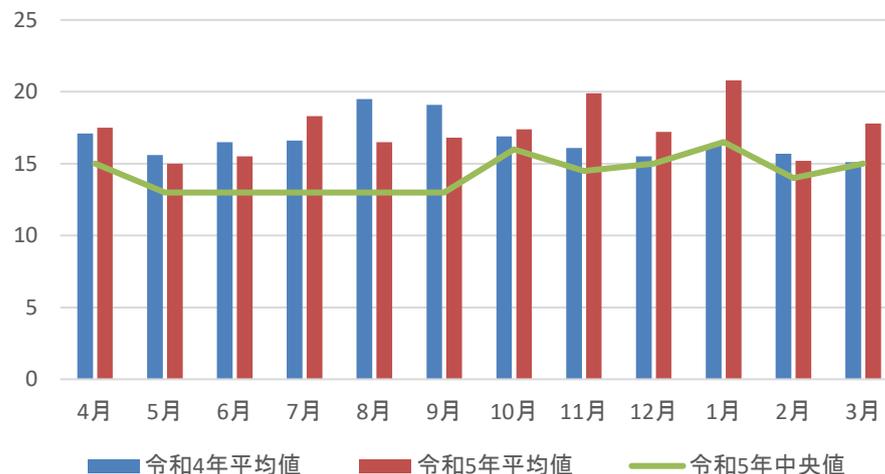
2 退院支援依頼件数の年次推移



退院支援件数は年々増加している。今年度は、過去最高の依頼数となり在宅調整の件数も増加した。

当院での急性期治療を終え、回復期病棟や地域包括ケア病棟を有する近隣病院などへ転院するケースが増えており、地域における病床機能分化が進んでいる事が伺える。

3 退院調整日数



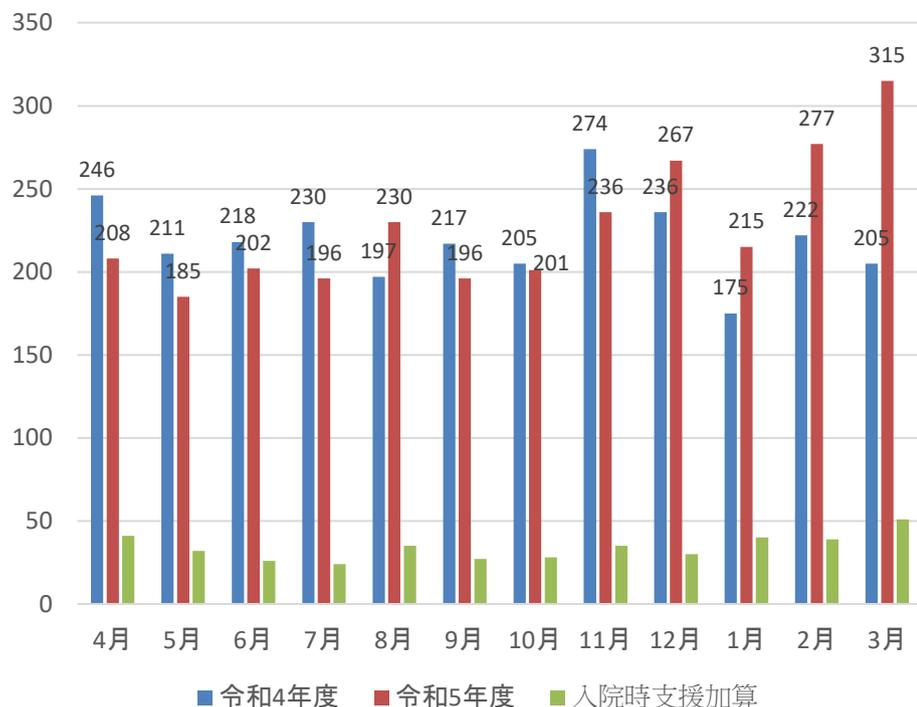
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和4年平均値	17.1	15.6	16.5	16.6	19.5	19.1	16.9	16.1	15.5	16.3	15.7	15.1
令和5年平均値	17.5	15	15.5	18.3	16.5	16.8	17.4	19.9	17.2	20.8	15.2	17.8
令和5年中央値	15	13	13	13	13	13	16	14.5	15	16.5	14	15

退院支援依頼を受けて介入を開始してから退院までに要した日数を「退院調整日数」と定義する。

今年度の平均調整日数は17,3日、中央値は14日であった。在院日数が短縮している昨今、退院調整が必要な場合は2週間程度を要するため、早めに意思決定や方向性を定めて、退院調整の介入依頼をしていく必要がある。

3-2 入退院・在宅療養支援

4 入退院支援加算2 算定数件数

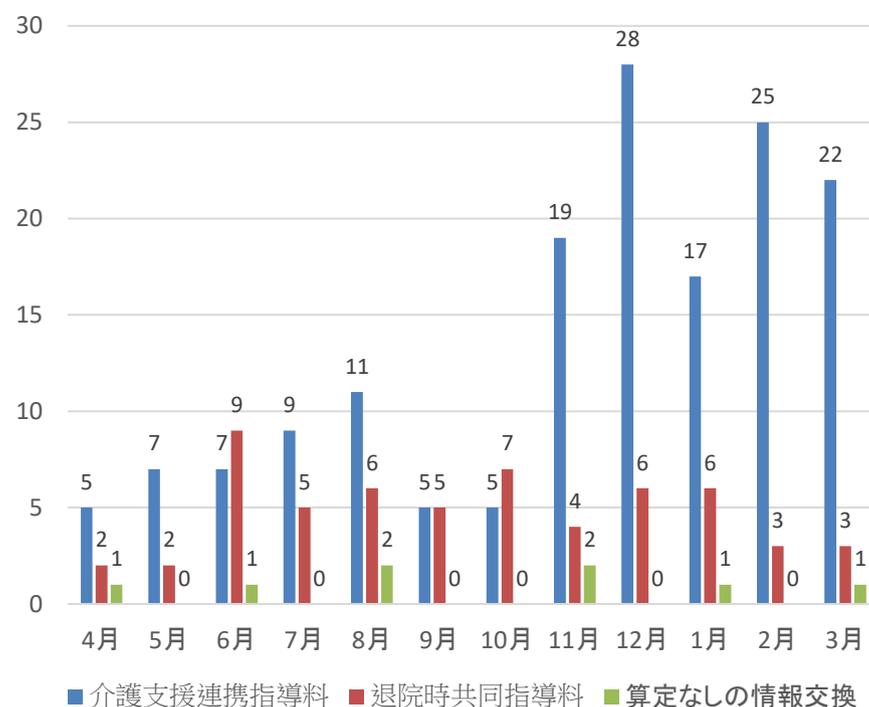


入退院支援加算2の算定数は2,728件であり、令和4年度より92件増加している。

メディカル・サポートエリアでは、入院前から患者家族に寄り添った介入を行っている。入院前情報収集の対象者を精神科以外の診療科に拡大した。

他部門、多職種と情報共有し早期からの介入に繋がっている。

5 院外・地域との情報交換や訪問

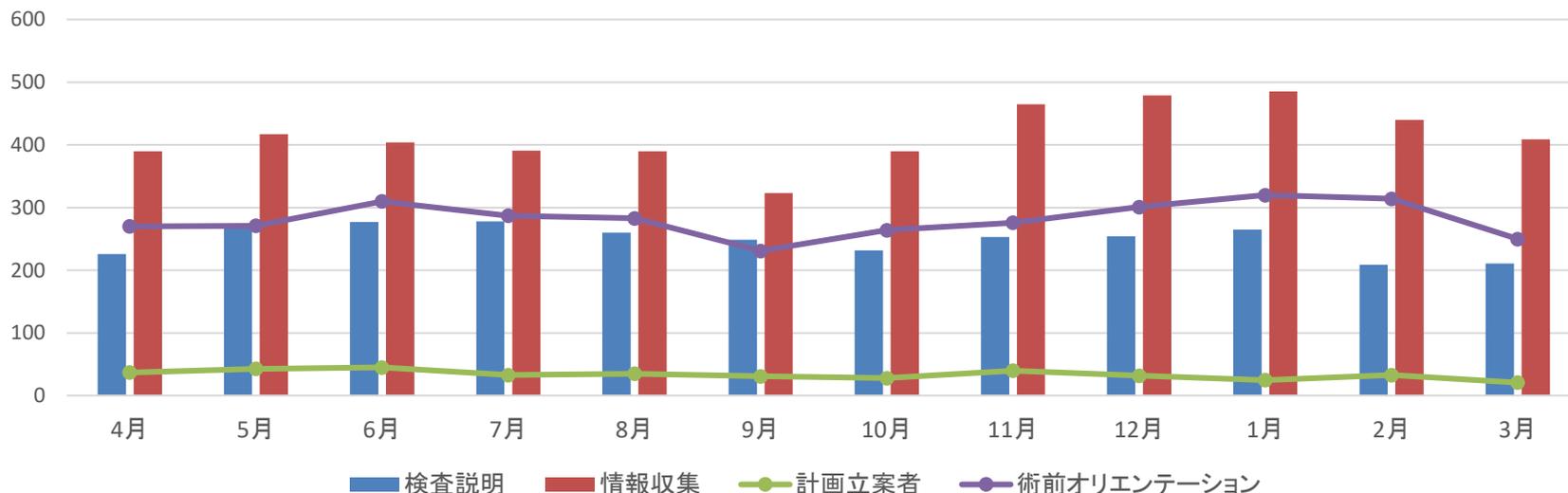


コロナが5類に移行し面会制限が緩和し、退院前カンファレンス・ケアマネジャーとの情報共有を対面で行うケースが増加している。そのため、介護支援等連携指導料や退院時共同指導料の算定数は昨年度と比べ大幅に増加した。入院後早期より支援の必要な患者へ介入し、地域との連携を強化していく。

3-2

医療・福祉部門 入退院・在宅療養支援

6 メディカル・サポートエリア実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査説明	226	272	277	278	260	249	232	253	254	265	209	211	2986
情報収集	390	417	404	391	390	323	390	465	479	485	440	409	4983
計画立案者	37	43	45	33	35	31	28	40	32	25	33	21	403
術前オリエンテーション	270	271	310	287	283	231	264	276	301	320	314	250	3377

【令和6年度目標】

- ・メディカル・サポートエリアの業務体制を見直し、他部署との連携を強化して患者・家族への入退院支援を充実させる
- ・院内外の連携の要として、患者家族を取り巻く関係者を繋げ、シームレスな入退院支援を提供する

4 がん相談支援センター



4 がん相談支援センター

今年度がん相談に当たった回数は3,778回(うち成人は3,563回、小児は215回)。当院の患者さんから多く相談いただいた(表1)。その内初めて利用した方の相談回数は年間886回(小児・成人あわせて)。今年度がん相談の2割が初めて相談に来る方であった(表2)。

昨年度と比較し相談回数は増加したが、初めて相談に来た方の相談回数の割合は同じである。相談窓口の普及啓発を行い、なんでも相談窓口をはじめとする院内の部署と連携し相談につながるよう活動していく。

表1 受診方法別相談回数 前年度比較

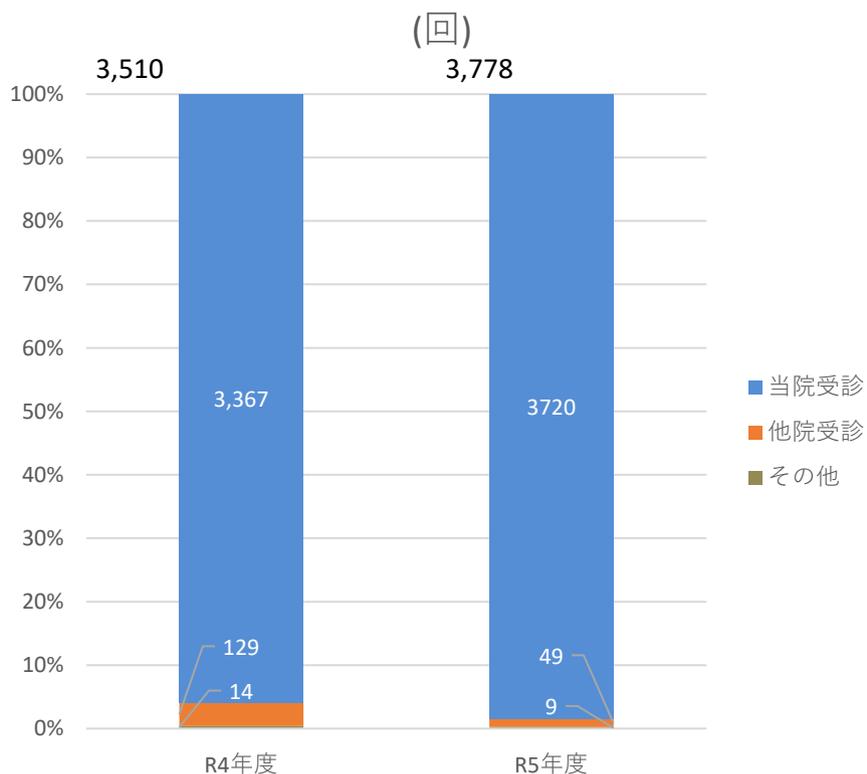
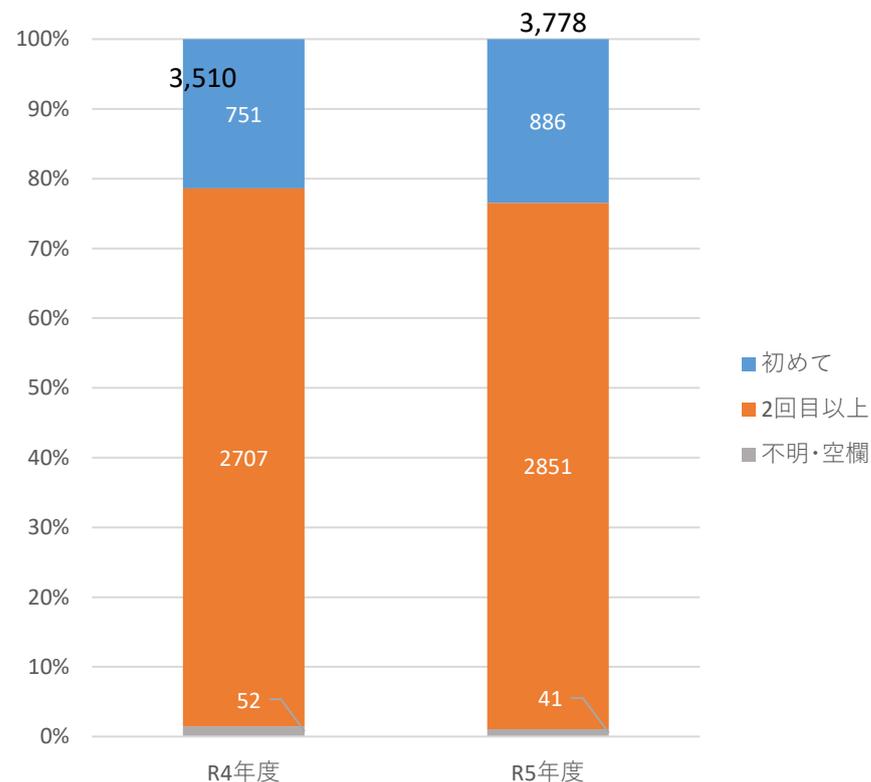


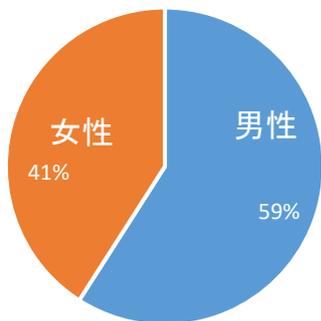
表2 利用回数 前年度比較(回)



4 がん相談支援センター

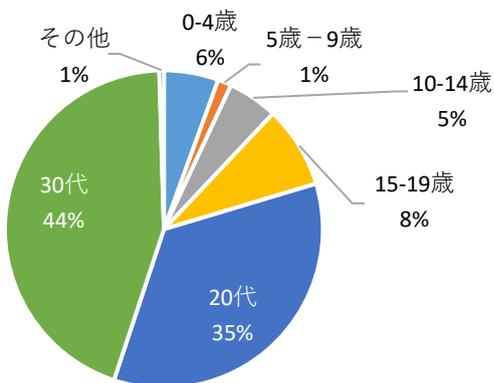
表3 ~40歳までの男女・年齢別相談回数(回)

R5年度 患者性別(小児：年間)



■ 男性 ■ 女性

R5年度 患者年齢(小児：年間)



■ 0-4歳 ■ 5歳-9歳 ■ 10-14歳 ■ 15-19歳 ■ 20代 ■ 30代 ■ その他

表4 年間相談内容 トップ10(回)

1 在宅医療	98
2 医療費・生活費・社会保障制度	57
3 転院	23
4 不安・精神的苦痛	6
5 受信方法・入院	5
6 療養	4
7 介護	3
8 がんの治療(その他)	2
8 ホスピス・緩和ケア	2
8 医療機関の紹介	2

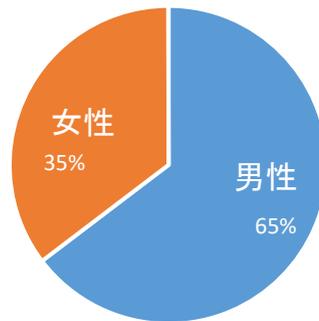
男女、年齢別相談回数では、30代の男性についての相談が多くなっている(表3)。相談内容では「在宅医療」「医療費・生活費・社会保障制度」「転院」の順で多くなっている(表4)。

入院中の患者さんへの支援がほとんどで、退院調整や小児慢性医療費助成制度をはじめとする福祉制度のご案内が多い。

4 がん相談支援センター

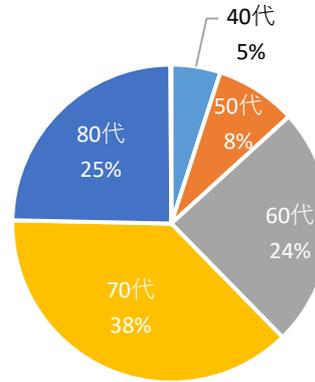
表5 男女・年齢別相談回数(回)

R5年度 患者性別(成人：年間)



■ 男性 ■ 女性

R5年度 患者年齢(成人：年間)

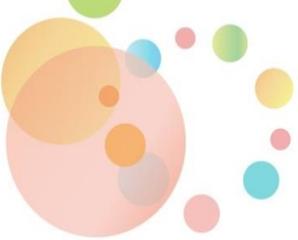


■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80代

表6 年間 相談内容 トップ10(回)

1 在宅医療	1,241
2 転院	1,099
3 療養	296
4 ホスピス・緩和ケア	249
5 医療費・生活費・社会保障制度	175
6 看護	112
7 介護	96
8 介護保険	57
9 医療機関の紹介	43
10 受信方法・入院	29

男女、年齢別相談回数では、70代以上の男性についての相談が多くなっている(表5)。相談内容では「在宅医療」「転院」、「療養」の順で多くなっている(表6)。入院中の方への在宅・転院調整の相談、そこに伴う医療費に関する相談が多い印象。外来の患者さんでも医療費が高額になる方も多く、今後も積極的に支援を続けていく。



4 がん相談支援センター

乳がん患者会スノードロップ

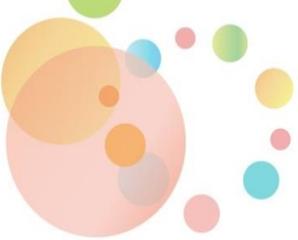
今年度も対面にて開催。新型コロナウイルスの影響なく実施することができた。検温や体調チェックシートの記入などの感染対策は引き続き継続した。前半で下記学習会、後半はフリートークとした。また、これまで世話人を務めていただいた方々から、新たな6名へ交代した。今後も世話人、参加者とともに患者会を継続していく。

- ・ 4月26日(水) 『こんなに変わった 最近の早期乳がん治療
～薬物療法・遺伝性乳がん・手術療法など～
講師：当院 乳腺外科 小泉圭 医師』
- ・ 7月26日(水) 『ゆったりフリートーク』
- ・ 10月25日(水) 『乳がんに関するミニレクチャー&医師への質問タイム』
講師：当院 乳腺外科 小泉圭 医師』
- ・ 1月24日(水) 『正しく知ろう、上手に付き合おう、リンパ浮腫』
講師：当院リハビリテーション部 作業療法士 下田亜由美氏』

就労相談会

静岡県産業保健センターの治療と仕事の両立支援についての専門家である、両立支援専門員と協力し、無料の就労相談会を企画している。今年度は1件申し込みがあり実施した。相談会以外でも相談希望のある場合は、随時患者さんを両立支援専門員へ紹介した。

がんになったため退職するのではなく、対象となる方には社会保障制度を活用しながら休職・復職の選択肢があることも提案しながら、就労継続の支援をしている。



4 がん相談支援センター

ハローワーク出張相談会

ハローワーク職員が当院に来院し、協力して新規就労先を見つける支援をしている。今年度は定期開催の日程を設けず、患者さんから希望があった場合に随時紹介した。当院で初回面談を行ったり、患者さんたちの了承を得てハローワークへ情報共有を行ったりしている。病気を抱えながらも、経済的理由のため・やりがいのため仕事を探したいというニーズは多い。今後も積極的にハローワークと連携していく。

浜松市がん診療連携拠点4病院実務者ミーティング

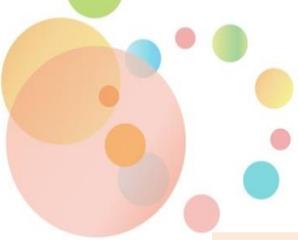
がん患者の就労促進、情報共有を目的に、基本毎月浜松市内のがん診療連携拠点4病院の相談実務者が集まり、ミーティングを行っている。8月には市内や近隣市町村でがん診療を実施している医療機関を対象に、「アピアランスケアに関する医療従事者向け講演会」を開催。看護師を中心に37回線からのアクセスがあった。10月は「浜松・湖西地区がん患者就労支援ネットワーク協議会」を開催。会場参加は5機関。WEB参加は9機関。行政、患者会、医療機関などが参加した。1月には、静岡県労働局と協力し、がん患者の治療と就労の両立支援セミナーを開催。医療従事者を中心に、企業、一般市民など32回線からのアクセスがあった。

治療と仕事の両立支援を行うためには、企業の理解と病院など関連機関の協力が必要になる。今後も講演会等を通じた普及啓発を行い、両立支援により一層力を入れていく方針である。

- R5.8.30(水) アピアランスケアに関する医療従事者向け講演会(WEB開催)
- R5.10.20(金) 浜松・湖西地区がん患者就労支援ネットワーク協議会(ハイブリッド開催)
- R6.1.29(月) 浜松市がん患者就労支援講演会(WEB開催)

5 難病医療相談支援室





5 難病医療相談支援室

令和5年度 難病医療相談支援室目標

- 1 次世代に継続できるように難病医療相談支援室の業務をマニュアル化する
- 2 難病患者の災害時在宅人工呼吸器装着患者受け入れ訓練を院内に浸透させる

目標の背景

1 本年度から難病カウンセラーが交代することとなった。業務引継ぎのため、研修の開催方法のマニュアル化はできているが、難病コーディネーターが主に行ってきた退院支援等のマニュアル化はできていない現状である。業務分担の再考や今後の業務継続のためには全てにおいてマニュアル化が必要である。

2 コロナ禍で中止されていた災害時在宅人工呼吸器装着患者受け入れ訓練が、令和4年度から再開された。これまでは特に院内に公表はせず、疾病対策課と難病医療相談支援室が連携して難病協力病院に発信してきたが、今後は院内にも何らかの方法で情報を伝えて、より現実的な訓練になるよう進化させていきたいと考える。

評価・反省

1 難病コーディネーターの業務を「静岡県疾病対策課との連携」「難病診療連携拠点病院の役割」「難病に関する相談」「神経難病患者一覧表」「難病患者就労相談会」「難病ニュースレター発行」「当院ホームページの編集」「医療福祉支援センター会議」「医療福祉支援センター年報」「学会・研修参加」「患者相談」「進行性の神経難病」の12項目を挙げて文章化した。今後も定期的に見直して必要時に改定していく。

2 災害時在宅人工呼吸器装着患者受け入れ訓練はコロナ禍以前のように行われた。また、4年ぶりに対面での難病災害連絡協議会が開催され、グループワークで受け入れ訓練や今後の連携について協力病院の参加者と話し合うことができた。問題点としては院内の訓練とリンクしていないことや机上訓練に留まっていることが挙げられた。



5 難病医療相談支援室

活動実績

【主催】

難病医療従事者研修会

災害時難病患者受け入れ訓練

静岡県難病患者災害連絡協議会

就労相談会 4回開催

難病ニュースレター発行 第29・30・31号

【参加】

事例検討会 静岡県難病情報交換会 7回

研修会 難病ビックデータ
難病ケアマネジメント
難病両立支援

学会 難病看護学会学術集会

相談会 西部難病医療相談会

患者会 日本ALS協会静岡県支部特別講演会

令和6年度 目標

1. 難病従事者研修会を5回開催させる
2. 人工呼吸器装着患者自宅退院支援マニュアルを作成する
3. 難病患者の災害時在宅人工呼吸器装着患者受け入れ訓練を院内に浸透させる

目標の背景

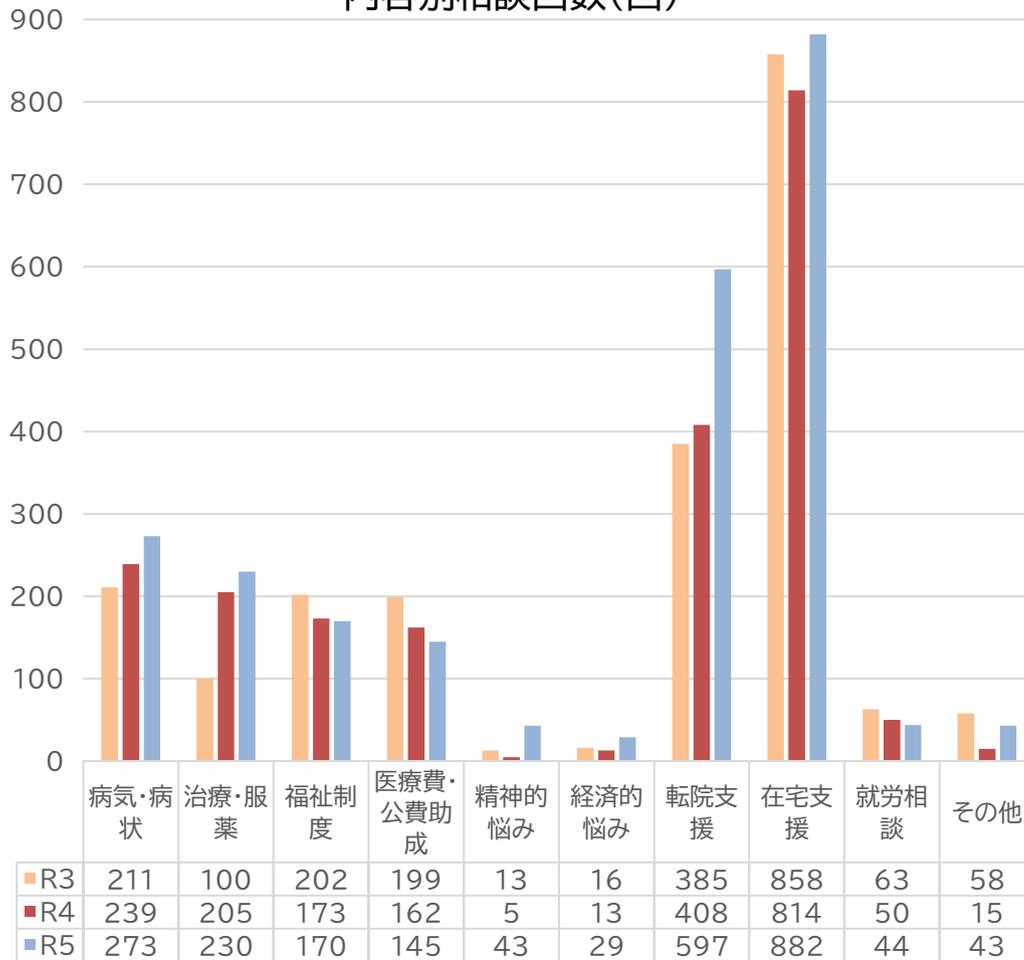
- 1 令和1年度までは対面での研修会を年1回開催していたが、コロナ禍の令和2年度からオンライン研修に切り替えた。当初は慣れないこともあり年2回の開催に留まっていたが、医事課の協力も得てアップロードが簡易にできるようになり軌道に乗ってきた。受講者へのアンケートでは大多数が対面よりもオンラインを希望しており視聴回数も伸びているため、ニーズに対応した研修会を継続していくことが重要だと考える。
- 2 侵襲的人工呼吸器を装着して自宅退院するケースは少ないため、ほとんどの病棟看護師は未経験である。そのため患者・家族指導に対し、どんな援助が必要なのか知識や情報が乏しく不安、プレッシャーが強い。退院までの全体的な流れや役割分担を視覚化し情報共有することで退院支援がスムーズに実施できれば患者・家族にも有益だと考える。
- 3 昨年度に引き続き検討していく。難病災害連絡協議会のグループワークでは、災害時在宅人工呼吸器患者受け入れ訓練が院内の防災訓練とリンクしていないことが問題点としてあげられた。当院も同様であるため、まずは受け入れ訓練の実施状況を院内にどのように報告していくのか検討してみる。



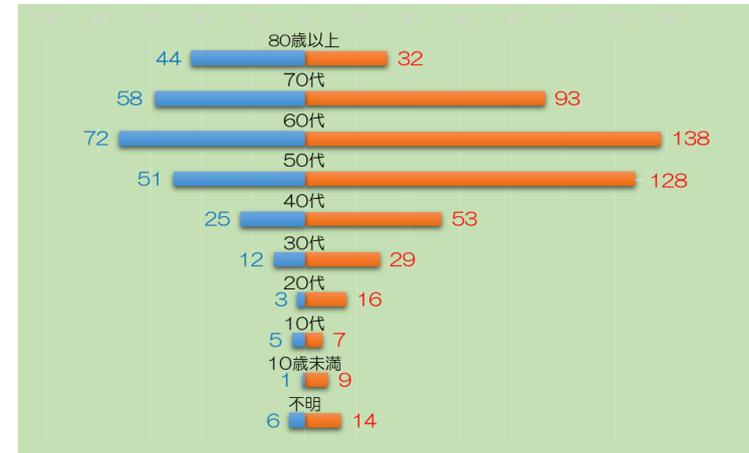
5 難病医療相談支援室

活動実績

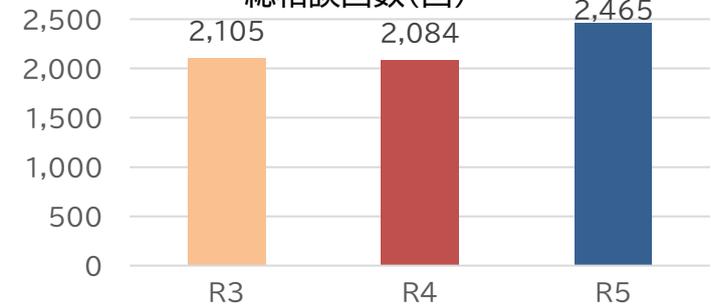
内容別相談回数(回)



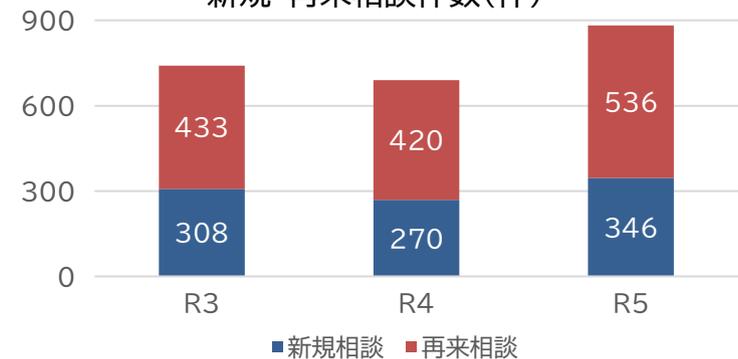
性別・年齢別相談者数(人)



総相談回数(回)



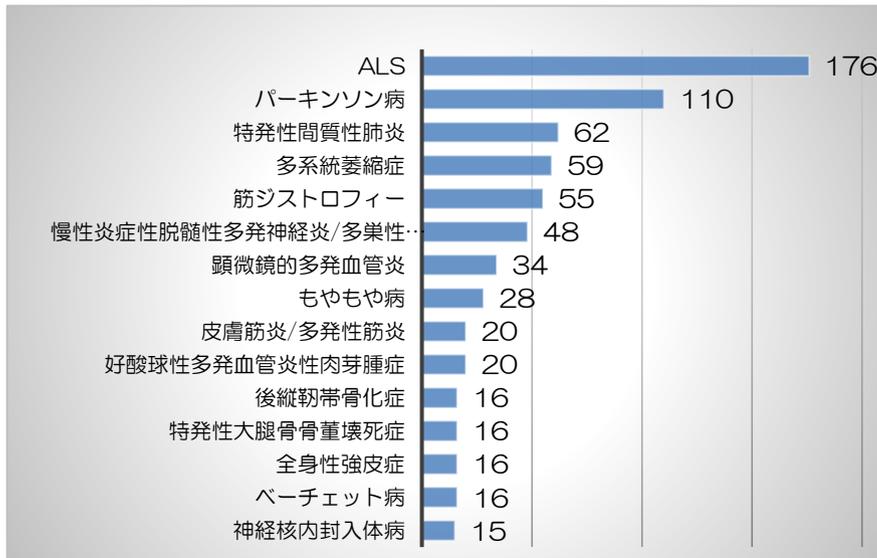
新規・再来相談件数(件)



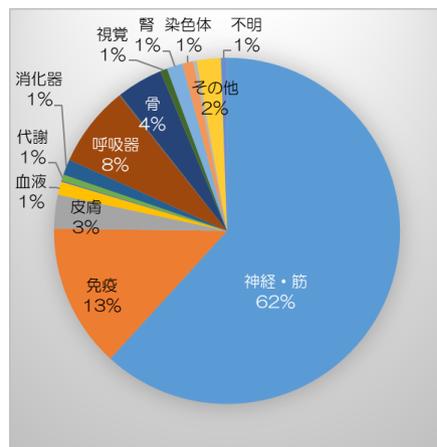
5 難病医療相談支援室

活動実績

難病疾患(件)※上位15疾患



相談疾患群割合(%)



少数相談疾患(疾患群別)

- | | | | | | |
|-------------|--|------------|---|------------------|---|
| 神経・筋 | 遺伝性シストニア
大脳皮質基底核変性症
脊髄性筋萎縮症
多発性硬化症/視神経脊髄炎
進行性核上性麻痺
原発性側索硬化症
脊髄小脳変性症
球脊髄性筋萎縮症
先天性中心核ミオパチー
封入体筋炎
アンジェルマン症候群
周期性四肢麻痺
シャルコー・マリー・トゥース病
小児交互性片麻痺
膿表ヘモジリン沈着症
アイザック症候群
トロサハント症候群
スティッフパーソン症候群
てんかん | 皮膚 | 天疱瘡
色素性乾皮症
神経線維腫
尋常性天疱瘡
膿疱性乾癬
エーラス・ダンロス症候群
類天疱瘡 | 腎・泌尿器 | IgA腎症
多発性嚢胞腎
一次性ネフローゼ症候群
ネイルパテラ症候群
尿管結石
腎盂腎炎 |
| 免疫 | 全身性エリテマトーデス
混合性結合組織病
成人スチル病
シェーグレン症候群
脊髄空洞症
悪性関節リウマチ
再発性多発性軟骨炎 | 消化器 | 慢性膵炎
潰瘍性大腸炎
クローン病 | 染色体・遺伝子異常 | VERTER症候群
ブラダーウィリー症候群 |
| | | 循環器 | 虚血性心疾患
肥大型心筋症 | 悪性腫瘍 | 直腸がん(疑い)
脳腫瘍
食道胃接続部がん |
| | | 呼吸器 | サルコイドーシス | その他 | 慢性疲労症候群
滑脳症
電磁波・化学物質過敏症
脳出血
パニック障害
義歯性潰瘍
動揺歯
1型糖尿病
ゴールデンハー症候群 |
| | | 内分泌 | 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症 | | |
| | | 代謝 | ミトコンドリア病
ライソゾーム病 | | |
| | | 視覚 | レーベル遺伝性視神経症
眼皮膚白皮症
黄斑ジストロフィー
原田病
弱視
特発性血小板減少性紫斑病
特発性血栓症 | | |
| | | 血液 | 後天性赤芽球癆 | | |
| | | 骨 | 黄色靭帯骨化症
ビタミンD抵抗性くる病 | | |



5 難病医療相談支援室

難病医療従事者研修会

浜松医科大学地域連携WEBセミナーYouTubeチャンネルにて限定配信 

配信時期	内容	講師	視聴者数	再生回数
R5.6~R5.7	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の診察と看護・介護の留意点 ～ALSと認知症について～	静岡てんかん・神経医療センター 浜松医科大学光先端医学教育研究センター生体機能 イメージング研究所 特任研究員客員准教授 寺田 達彦 先生	121	391
R5.9~R5.10	認知機能低下のある難病患者のパーソン・センタード・ケア	浜松医科大学 医学部 看護学科 老年看護学 教授 鈴木 みずえ 先生	80	314
R5.11~R6.2	意思決定支援に携わる「私たち」をケアする ー納得感を生み出す意思決定支援カンファレンスを創ろう！ー	株式会社アンビス 医心館 浜松 訪問看護ステーション浜松早出・訪問介護ステーション 浜松管理者 緩和ケア認定看護師・公認心理師 平野 美佳子 先生	101	332

5 難病医療相談支援室

災害時難病患者受け入れ訓練

令和5年度静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加。難病医療協力病院に対し、難病患者の受入可否の状況及び病院の被災状況について照会をメールで行い、疾病対策課に回答結果を報告。33病院より【入院】98人・【電源のみ】110人受入可能との返信があった。当院DMAT医師も難病災害メーリングリストに追加。災害時の難病患者さんの対応について、今後どのように連携していくか検討していく。



1月に予定されていた訓練は、能登半島地震発生に伴い中止となった。

静岡県難病患者災害連絡協議会

「難病患者の災害時における対応」について

講師 医療法人社団泰平会 城西クリニック
副院長 溝口 功一 様

「災害時における保健医療福祉調整本部、DMAT及び医療機関等の災害医療連携体制」について

講師 浜松医科大学医学部附属病院 経営支援課
加藤 真嗣 様

平成27年度より、静岡県健康福祉部疾病対策課と共同開催。コロナ禍の為、数年WEB開催だったが、5年ぶりの対面開催。溝口先生からは、災害時には、自助・共助が重要であり、個別避難計画は、市町村の努力義務とされているが、多職種が連携して作成する必要があり、災害予防期から、難病医療連絡協議会等で難病医療ネットワークの連携方法を検討しておくことが重要である、加藤さんからは、災害医療においては、「CSCATTT」「Command & Control（指揮と統制）」が重要であり、災害時にはDMAT、日赤、DHEATなど多くのチームがそれぞれのミッションを持って活動するが、各々の方針で活動すると、必要なところに必要な医療を適切に提供できない為、情報の整理に当たってはあらかじめ決められた様式を使用し、情報共有を図る必要があるとのお話があった。

出席者 県内の難病診療連携拠点病院及び難病診療連携協力病院の医師・看護師・MSW、防災担当や総務担当、保健所難病担当者



5 難病医療相談支援室

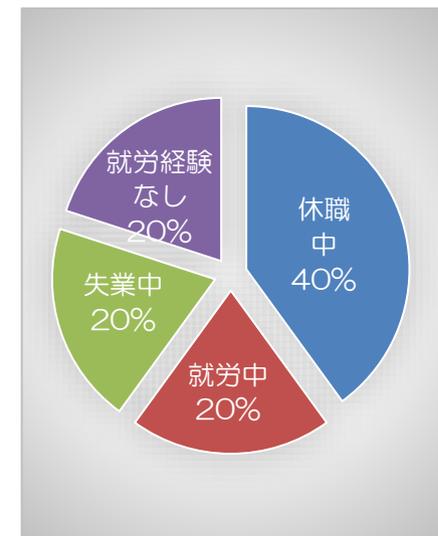
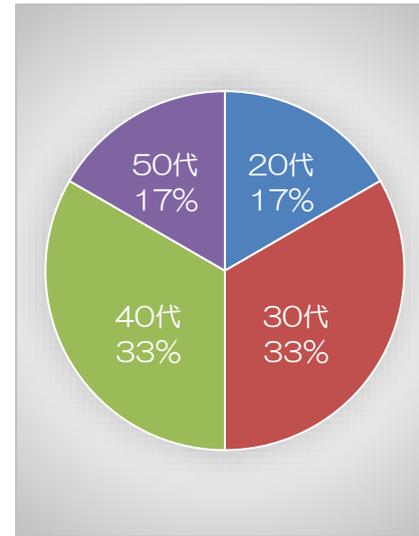
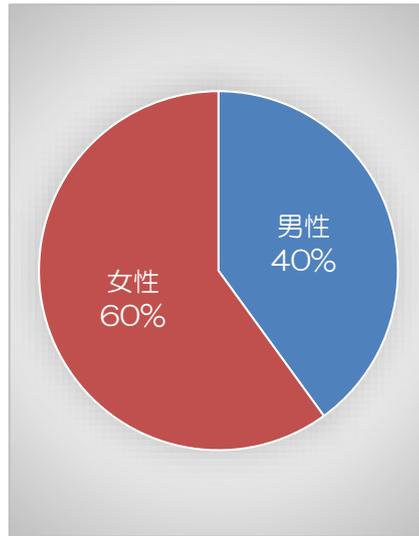
難病患者さんのための就労相談会

令和6年3月1日(金)開催
難病患者さんのための
就労相談会

まずは相談
はじめての一步

【お問合せ先】 日時：令和6年3月1日(金)
浜松医科大学医学部附属病院 13:30~16:30
難病医療相談支援室 予約制・お1人1時間程度
TEL:053-435-2477 (当院受診中の患者さん対象)
(平日 8:30 ~ 16:45) 場所：浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター (外来棟1階)

2017年より開催。



開催日

第1回	2023年 6月23日
第2回	2023年 9月29日
第3回	2023年12月 8日
第4回	2024年 3月 1日

【相談疾患】

免疫系疾患

- ・好酸球性多発血管肉芽腫症
- ・混合性結合組織病
- ・シェーグレン症候群

消化器系疾患

- ・潰瘍性大腸炎
- ・原発性硬化性胆管炎

腎・泌尿器系疾患

- ・IgA腎症

その他

- ・線維筋痛症

6 肝疾患連携相談室



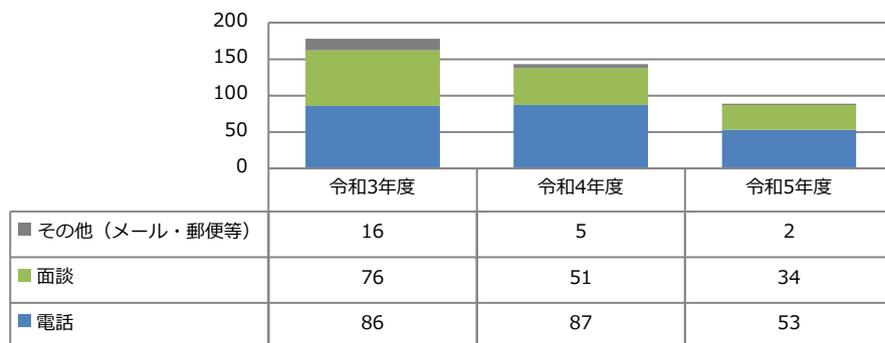
6 肝疾患連携相談室

静岡県肝疾患診療連携拠点病院事業実施報告

1 相談支援事業

令和5年度の肝疾患連携相談室の相談件数は、年間89件（電話53件、面談34件、その他2件）であった。相談内容は、肝炎給付金の相談が45件と半分をしめた。

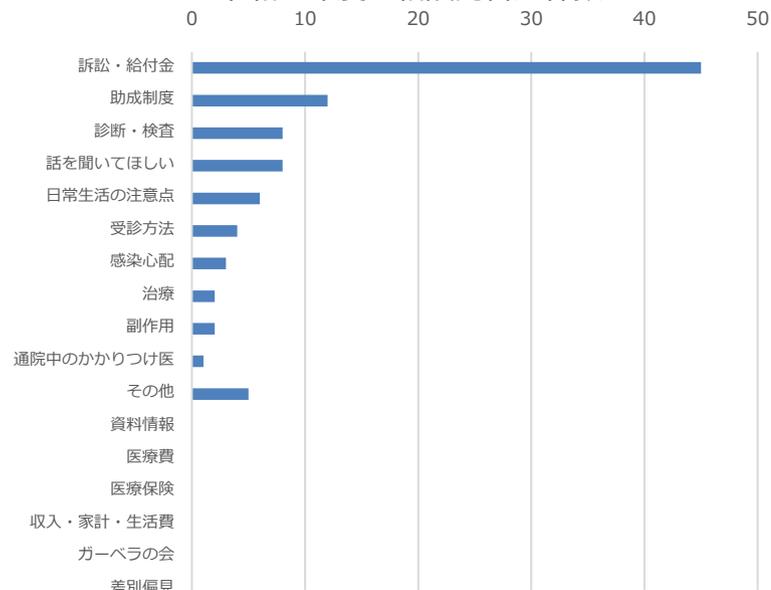
相談件数の年次推移



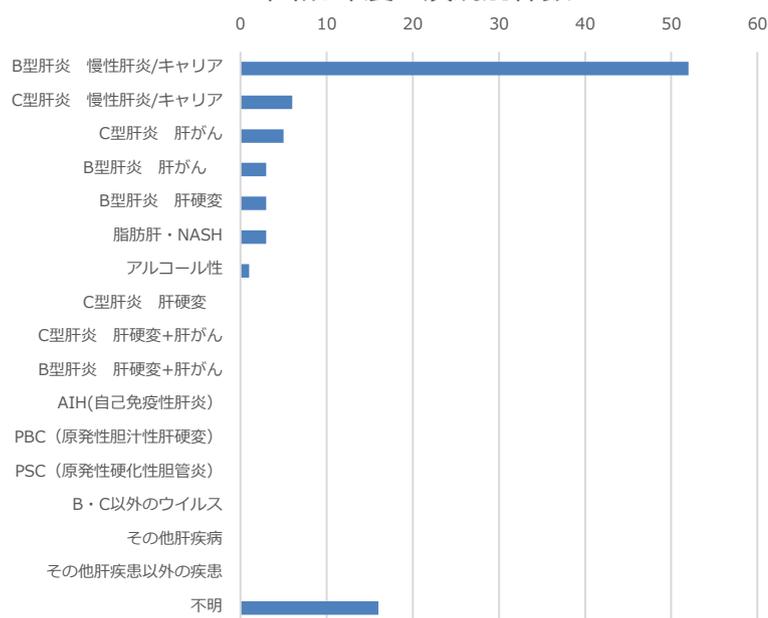
2 肝疾患診療連携拠点病院等連携連絡協議会

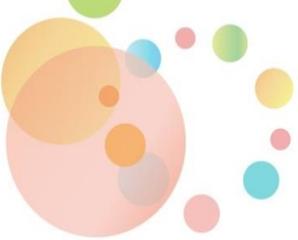
肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会は、静岡県肝疾患診療連携拠点病院である当院と順天堂大学医学部附属静岡病院が1年毎の交代制となり、令和5年度は順天堂大学医学部附属静岡病院が企画・運営し連絡協議会を開催した。

令和5年度 相談内容別件数



令和5年度 疾病別件数





6 肝疾患連携相談室

3 医療従事者、地域住民等を対象とした研修会、講演会等

(1) 医療従事者を対象とした研修会等

- ①2023. 7. 5 (水) 静岡県肝炎医療コーディネーター登録更新研修会 【集合型】
参加者：医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等 (15名)
内 容：「静岡県の肝炎対策」「B型肝炎ウイルスに対する知識の整理」「グループワーク」
- ②2023.11.22 (水) 静岡県肝疾患かかりつけ医研修会 【ライブ配信】
参加者：医師等 (37名)
内 容：「静岡県の肝炎対策」「脂肪肝について」「ウイルス性肝炎について」
- ③2023.11.16 (木)～30 (木) 静岡県肝炎医療コーディネーター養成研修会 【WEB配信】
参加者：医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等 (107名)
内 容：「静岡県の肝炎対策」「静岡県の肝炎対策及びコーディネーターに期待される役割」
「ウイルス性肝炎の診断と治療」「肝硬変、肝がん、NASH等の診断と治療」
「拠点病院の活動報告」「患者団体の活動」
- ④2023.12. 1 (金)～15 (金) 静岡県肝炎医療コーディネーター登録更新研修会 【WEB配信】
参加者：医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等 (142名)
内 容：「静岡県の肝炎対策」「B型肝炎に関する最近の話題」
「肝硬変の食事・生活習慣病予防の食事」「肝炎体操と脂肪肝・サルコペニアの予防」
「治療と仕事の両立支援～就労支援について」

6 肝疾患連携相談室

【2】 患者、患者家族及び地域住民を対象とした講演会等

1) 市民公開講座『もっと知ろう！肝臓病』

①2023.7.1（土）～2024.2.29（木） WEB配信 再生総件数：718件

内容：「ウイルス性肝炎について」「脂肪肝について」「肝がんについて」「肝炎助成制度の紹介」

共催：浜松市、静岡県西部保健所、静岡県中部保健所

②2023.10.15（日）浜松市佐久間：集合型 参加者：25名

内容：「肝がんを予防するために今からできること」

「コロナ対策は終わり？これからの感染症対策」「脂肪肝予防の食事について」

共催：浜松市

2) 出張肝臓病教室

静岡県内の中学生及び高等学校を対象とした肝臓病教室を開催 ※静岡県肝疾患診療連携拠点病院が協同し

実施

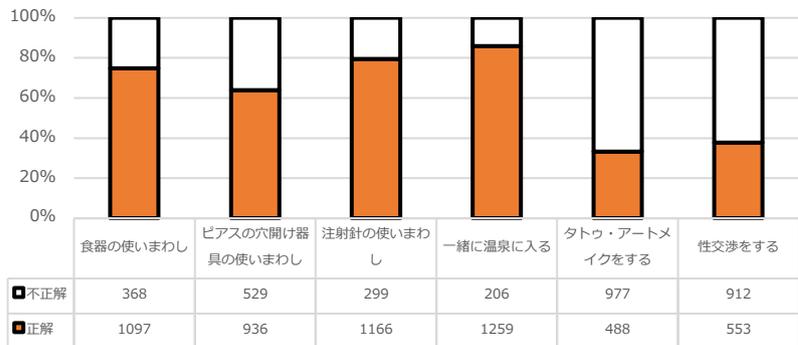
県立高校（全日制）：6校、私立高校：3校、県立高校（定時制）：2校、中学校：1校

合計：12校 参加人数：4,425名

理解度及び肝炎ウイルス検査受検/治療勧奨に関するアンケートを講演前・講演後実施した

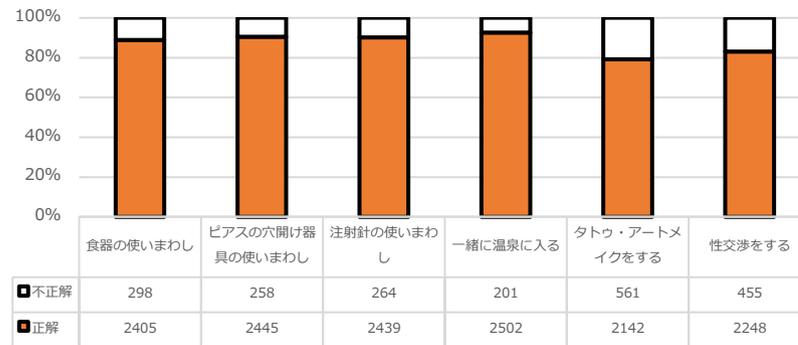
講演前アンケート

○ B型・C型肝炎の感染原因になる行為を知っていますか？



講演後アンケート

○ B型・C型肝炎の感染原因になる行為を知っていますか？



6 肝疾患連携相談室

4 肝疾患診療に関する情報収集及び情報提供

1 肝炎に関する普及啓発と感染予防の推進活動

1) 一般市民への普及啓発活動

①WEB広告

期 間	2023.7.1 (土) ~2023.2.29 (水)
内 容	WEB上 (Yahoo・Googleリスティング広告、YDN/GDNディスプレイ広告、YDNインフィード広告、Instagram) に広告を掲載
方 法	WEB上の広告をクリックするとランディングページへ移行、無料肝炎ウイルス検査受検の呼びかけを行う。2023年度は、新規取組としてWeb市民公開講座の動画を掲載
エ リ ア	静岡県内全域
年 齢	15歳~無制限 (※GDNディスプレイ広告は、18歳以上~無制限)
利用者層	タトゥー・ピアスをしようと考えている方 (興味・関心として風俗、ドラッグなど肝炎リスクが高いと思われる方を含む)
効果検証	浜松市を除く保健所において、HIV等検査申込者に対してアンケートを実施。 また、保健所連絡先アクセス数とアンケート結果を検証
結 果	2023年4月~2023年12月まで行われたアンケート888名回収し、175名の20%がWeb広告を見たことがあると回答した。175名の内、128名の73%が「Web広告を見て肝炎ウイルス検査を受けようと思った」と回答した。

<Web市民公開講座の動画を掲載>

WEB配信 令和5年度市民公開講座「もっと知ろう!肝臓病」

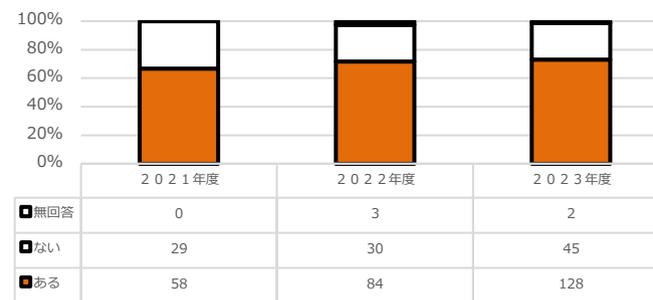


年度別Web広告を見たか回答した比率



年度別 Web広告を見て

「肝炎ウイルス検査を受けようと思った」と回答した比率



6 肝疾患連携相談室

②院内普及啓発活動

㊦毎月28日の啓発活動

毎月28日（土・日祝日の場合は第四木曜日）を肝炎デーとし啓発活動を実施

期 間 2023.4月～2024.3月

内 容 ポスター掲示及び患者案内システムテロップの掲示、啓発用マスクシールをマスクに貼付し着用

①肝炎デー及び肝臓週間に関する普及啓発活動

日 時 2023.7.24（月）～7.28（金）

内 容 ㊦「静岡県肝炎医療コーディネーター」所属先等において普及啓発活動用に作成したポロシャツ及びTシャツ、マスクを着用

①検査部、入院カウンター等において啓発資材を設置

㊦肝炎デー当日の7月28日正面玄関において配布物の配布

③院外普及啓発活動

㊦BOOKアマノさん5店舗での啓発活動

期間：2023.7.24（月）～7.28日（金）

内容：各店舗において肝臓コーナーを設置及びポスター掲示、配布物の配布

①浜松市西図書館での啓発活動

期間：2023.7.1（土）～7.31（月）

昨年度に引き続き浜松市西図書館、浜松市保健所と協力し肝臓コーナーを設置

㊦静岡県合同での啓発活動

日時：2023.7.25（火）

県、静岡市、両拠点病院が協同し、静岡駅構内において配布物を配布及び市民公開講座を実施



6 肝疾患連携相談室

2) 当院の肝炎医療コーディネーターの育成

中・高校生を対象とした肝臓病教室、市民公開講座へ参加及び毎月28日のイベント、肝臓週間期間中の啓発活動及び打合せ会を3回開催した。

1回目：勉強会、顔合わせ、2023年度肝炎デー・肝臓週間の開催準備

2回目：勉強会、脂肪肝のイラスト募集、肝臓週間の反省、中・高校生を対象とした肝臓病教室等の感想

3回目：勉強会、2023年度報告及び2024年度の準備

3) 「肝臓病手帳」の普及・推進活動の継続

肝臓病手帳配布数：109冊配布

<内訳> 医療/行政機関へ配布：4施設/80冊、一般市民へ配布：24名/24冊、図書館：1施設/5冊

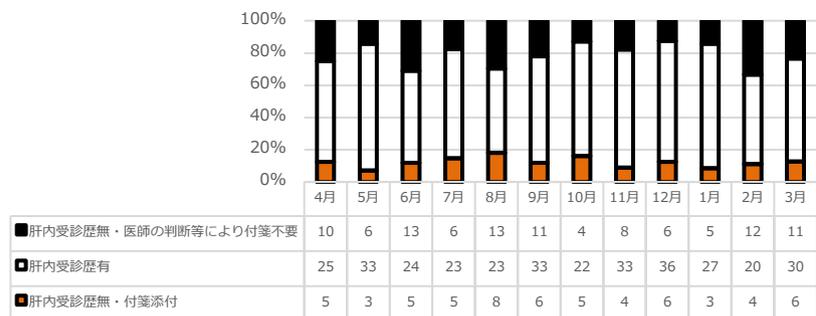
4) ウイルス検査陽性者への受診勧奨の推進

肝炎ウイルス検査陽性者の院内フォローアップの推進

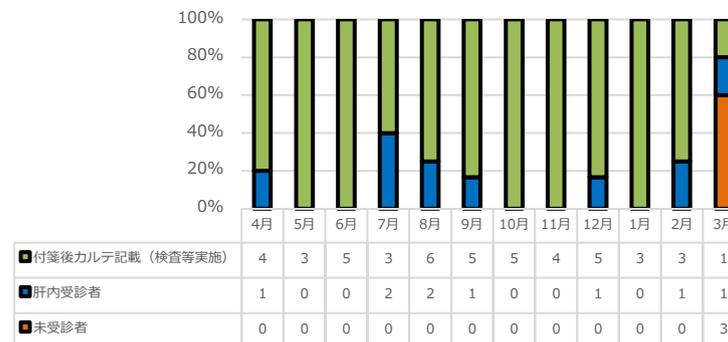
2018.6.1より入院患者を対象に開始し、2019.7月より外来患者も加え実施

外来・入院患者の肝炎ウイルス検査陽性者をピックアップし、未受診患者の受診勧奨を医師へ依頼

肝炎ウイルス検査（HBs抗原・HCV抗体）
陽性者の肝臓内科受診歴無・付箋添付した比率



付箋後の未受診・受診等の比率

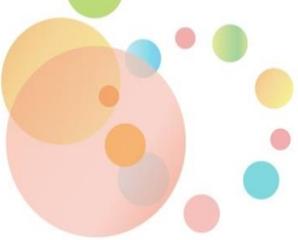


<結果>

肝炎ウイルス検査陽性者はHBs抗原314名、HCV抗体183名、うち3名が両方陽性であったため合計497名であった。陽性者のうち329名の66%が肝臓内科の受診歴があった。残り168名の内、107名は肝臓内科医師により付箋依頼不要と判断され、61名のカルテに肝臓内科受診・検査の付箋を添付し、9名は肝臓内科受診、49名はRNA検査実施・説明若しくは他院受診となった。未受診者は3名であるが、3月に付箋添付をしたものである。

7 なんでも相談窓口





7 なんでも相談窓口

令和5年6月1日 なんでも相談窓口運用開始

なんでも相談窓口は、いつでも気軽に相談できる場として、病院を利用するすべての人の様々な相談に適切に対応し、**患者サービスの質向上を図る**ことを目的とする

役割

各種相談受付及び担当部署への取次・案内

設置場所・対応時間

外来棟2階 病院正面玄関
相談室1室
平日8:30～17:00

相談方法

窓口にて直接対応
院内各部署・部門からの依頼による対応
電話による相談



7 なんでも相談窓口

1 なんでも相談窓口新設による患者相談支援体制強化



業務内容

- 相談、問い合わせへの対応 
- 担当窓口へのご案内・取次
- クレーム対応（傾聴など） 
- 対応記録と報告（医療サービスWG）

期待される効果

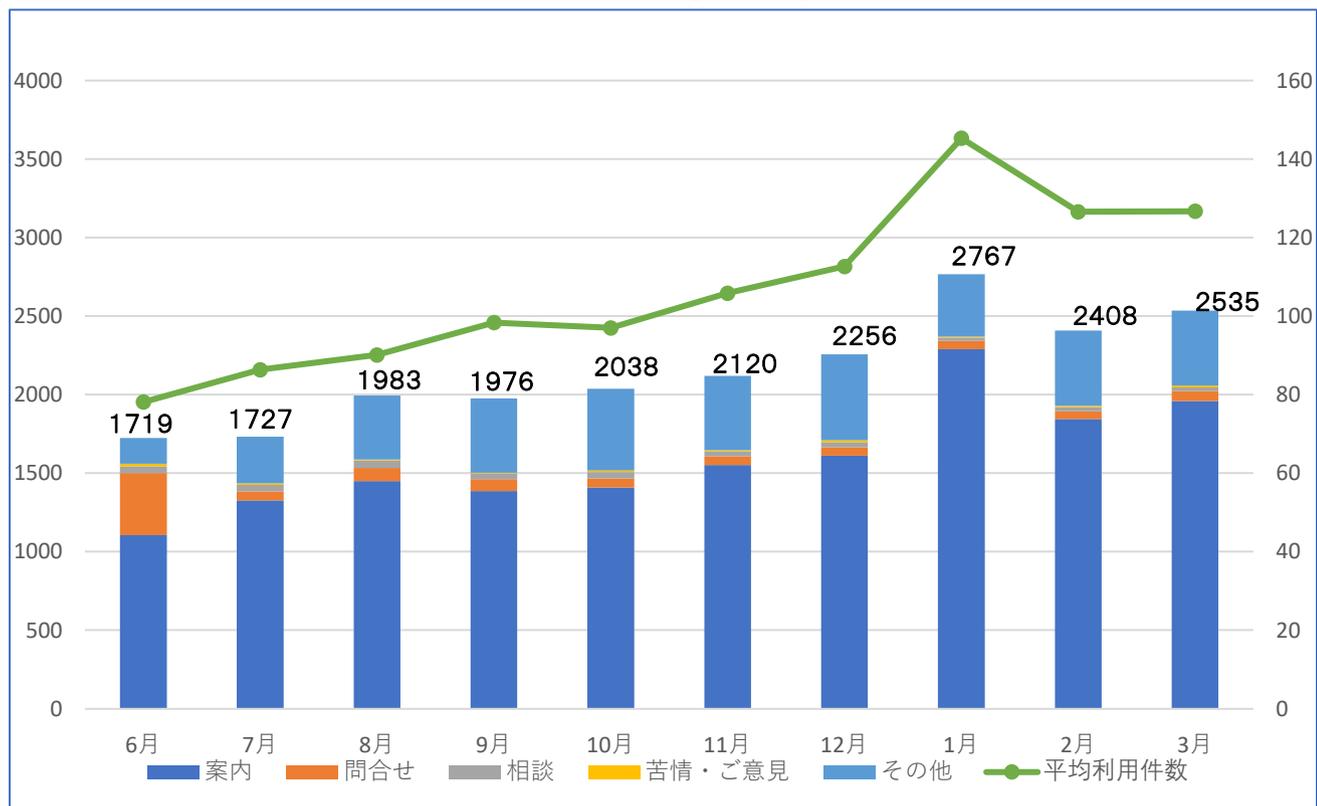
- 患者満足度の向上 
- 患者・家族のストレス軽減
- 職員の負担軽減（働き方改革）

7 なんでも相談窓口

2 活動実績

令和5年6月1日に新設されたなんでも相談窓口は、年度末までに203日稼動した。相談窓口の利用件数は21502件で、相談等の実数は21553件、1日平均相談件数は106件であった。開設当初は利用者は少なかったが、開設より日数が経過するにつれて窓口の存在が周知され、利用者も増えた。当院の診療規模と実績から考えると、窓口利用者は2000～2500件/月程度が妥当と考える

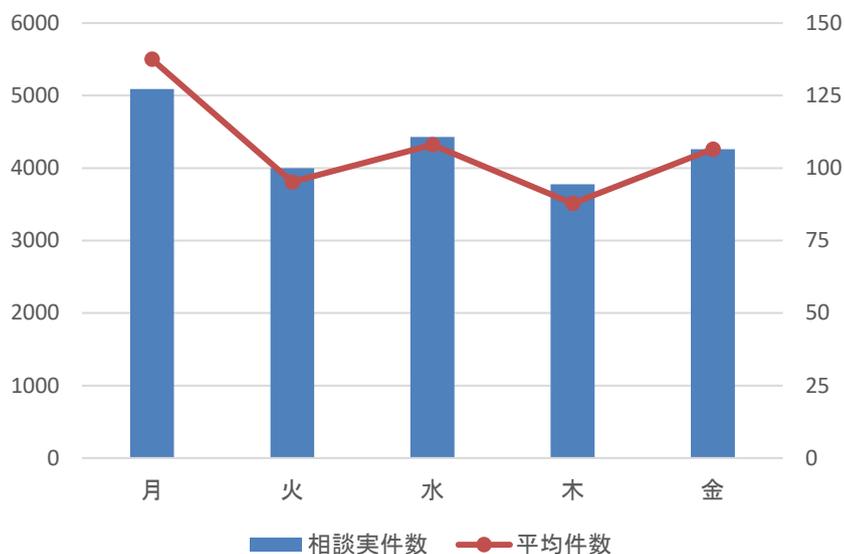
利用件数 (月別)



7 なんでも相談窓口

2 活動実績

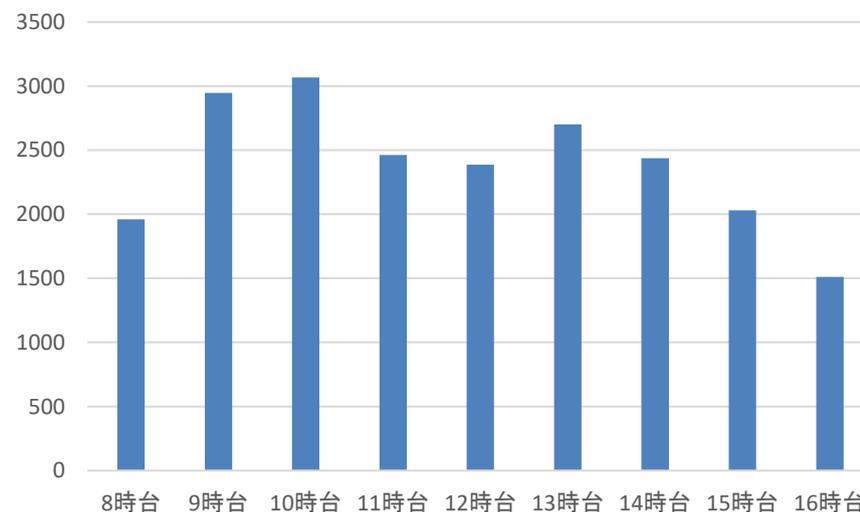
利用件数（曜日別）



祝日などで稼働の少ない曜日がある為、実利用件数と平均件数で比較した。

月曜日の利用件数は多いが他の曜日に特徴的な傾向はみられない。

利用件数（時間帯別）



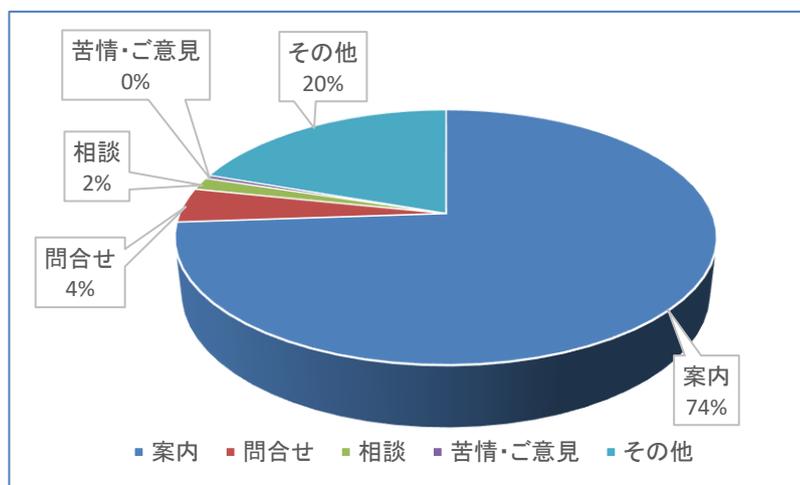
8時台は30分の稼働のため実件数は少ないが、利用時間帯による窓口利用者数のピークは8時～10時台。

面会時間が始まる13時頃再び増加し14時以降は緩やかに減少する。

7 なんでも相談窓口

2 活動実績

利用内容（対応業務別）



窓口に来られる方の8割程度がインフォメーション目的で利用される。

来院時の乗換の補助や体調不良時の対応など看護師が対応するケースや、制度の説明を求められMSWが対応するケースがあり、多職種での配置が活かされている。

利用内容（案内先）

内訳

総合受付

初診・再診受付 保険証確認

文書発行受け取り

入院受付

料金計算・支払い窓口

外来診療科受付

病棟・面会案内

駐車場割引認証カウンター

医療福祉支援センター

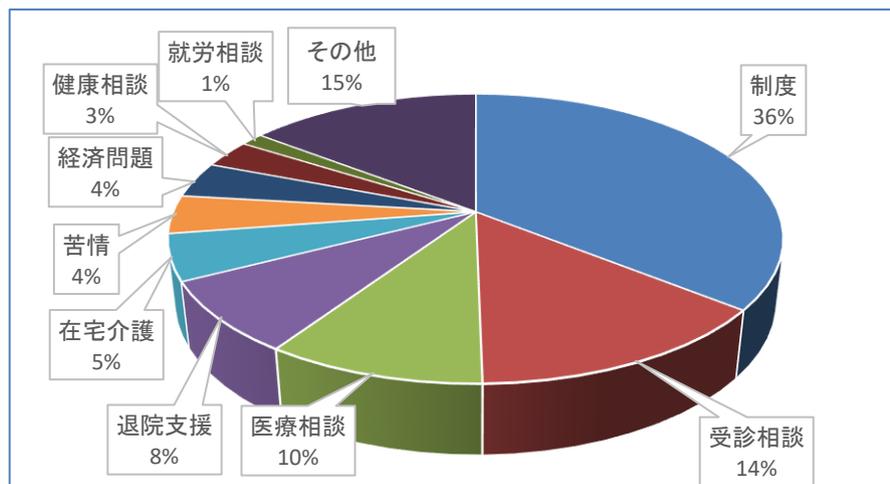
等

来院時の受付から受診後次回の外来予約や処方箋の取り扱い、面会家族や来客など、案内先は院内全般に広く案内している。

7 なんでも相談窓口

2 活動実績

利用内容別内訳（相談）



相談対応件数 350件

傾聴や助言等の対応

相談内容に応じて診療科・医療福祉支援センター・認定看護師・PSW・医療安全管理室など適切な部署に取次ぎ対応を依頼している。

利用内容（苦情・ご意見）

- ・ 接遇・施設の不備
- ・ 医療相談以外の苦情

対応件数 98件

- ・ 待ち時間が長い
- ・ 駐車場や駐輪場の不備
- ・ 受付対応職員の態度が悪い
- ・ 携帯電話の電波状況が悪い
- ・ 廊下の交差点にミラーがほしい

医療サービスWGで報告し改善

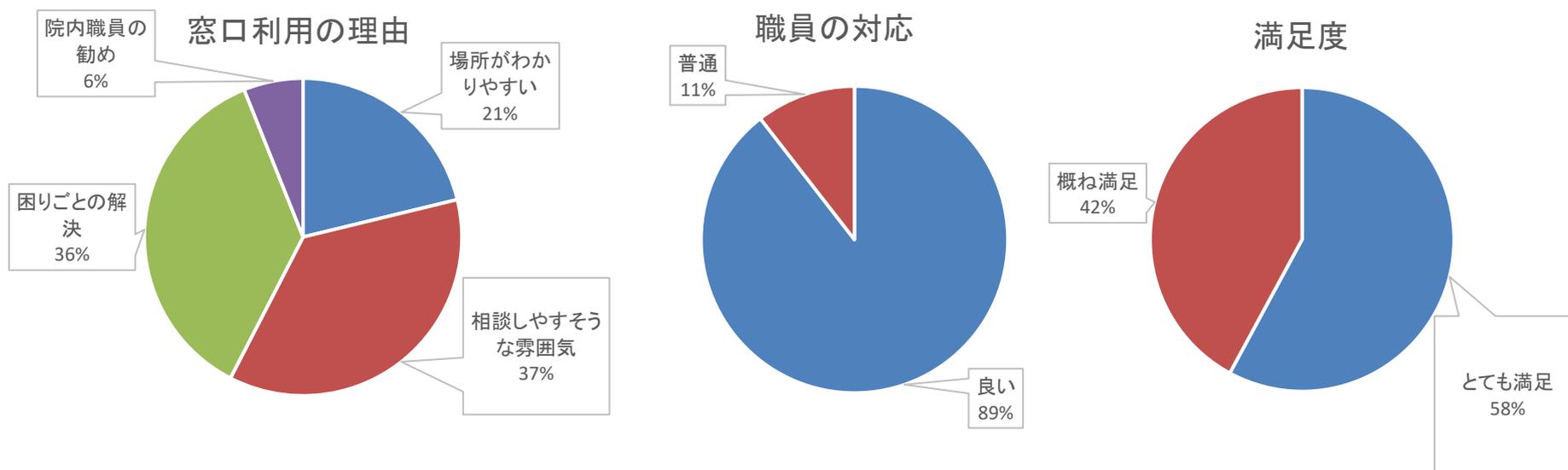
設備の不備や故障は直接対応部署に改善を依頼した。

7 なんでも相談窓口

3 窓口利用者アンケート

窓口に来た方を対象にアンケートを実施（開設後6ヶ月）

令和5年11月～12月 回答19件

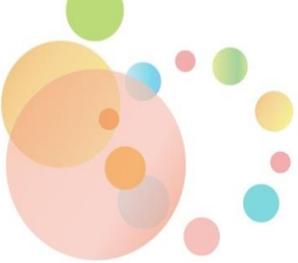


アンケートの結果

なんでも相談窓口はわかりやすい場所に設置されている。

相談しやすいというイメージがあり、困りごとの解決のために利用している。

職員の対応も良好で、利用者の満足度は高い。



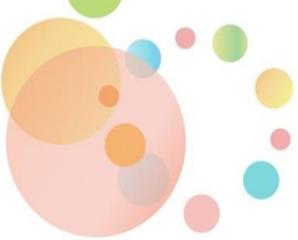
7 なんでも相談窓口

4 年間まとめ

令和5年6月1日より、病院正面玄関になんでも相談窓口が設置され、多くの人が利用している。窓口には看護師、社会福祉士、事務職員が常駐し、保安員と連携しながら各種相談や案内を行っている。専門職の配置により病状や社会保障制度などへの相談に対して迅速に対応できている。病院を利用する全ての人のための窓口として、患者、家族、来客等が利用し、利用者の満足度は高かった。利用目的は案内が大半を占めるが、インフォメーション業務を担う事で、来院者の満足に繋がっている。

【令和6年度目標】

- ・多くの人に利用してもらえる様に、窓口の存在や利用目的の周知を図る
- ・接遇を強化し、利用しやすい窓口を目指す



編集後記

医療福祉支援センターに支援依頼が来るケースについて、高齢者の一人暮らしの方が非常に増えている実感です。またそのような方で『身寄りが無い』ということも多々あり、退院困難な要因となっています。他院ですが回復期病院のデータでは、退院に制約がない場合は平均35日でしたが、制約があった場合は平均50日かかっています（医療格差と生活保護行政の検証より）。そういったこともあり来年度診療報酬・介護報酬の同時改定が行われ、医療と介護の連携を強化することに対する報酬が手厚くなるようです。

	65歳以上人口	高齢化率	高齢者一人を支える現役世代	65歳以上の一人暮らし	65歳以上の内一人暮らしの割合
令和2年	3,603万人	28.6%	2,1人	男231万人 女441万人	男15% 女22.1%
令和18年(予想値)	3,900万人	33.3%	1,5人	男356万人 女540万人	男20.8% 女24.5%

総務省 一人暮らしの高齢者に対する見守り活動に関する調査より

上記の表より、自分はどうなっていくのか心配になってきます。これから家族の形が複数から少数に変わっていく、今はちょうど過渡期だと思います（私は過渡期を過ぎて安定期にすでに入っていますが）。報酬改定でカバーできることばかりではないので退院支援看護師やMSWに求められることが増えていきます。一人の患者さんを地域で支えていくように、一人の職員を皆で支え、お互いに支え合い、高い水準の支援ができるように目指していきたいと思っています。幸い、職員それぞれが各分野で役割を果たし頑丈な柱になって担当業務をしっかりと支えてくれています。ここにある報告は、そんなみんなの成果の一部です、心から誇りに思います。引続きよろしく願いいたします。また私が一人暮らしで困っていたら手厚い支援で支えてください

(編集担当)